

— 目 次 —

この書を読むために	1
I 趣 旨	1
II 社会科の学力	2
III ペーパーテストと学力の評価	12
IV 高校進学学力検査問題と学力の評価	13
V 記述の形式について	14
分野別学力検査問題一覧表	15
学力検査問題と学習指導	18
I 地理的分野	18
II 歴史的分野	37
III 政治, 経済, 社会的分野	55
あ と が き	80

この書を読むために

I 趣 旨

この紀要はだいたい次のような構想で組立てられている。

- 社会科の学力
- ペーパーテストと学力の評価
- 高等学校進学学力検査問題（以下、学力検査問題と略称）と学力の評価
- 学力検査問題と学習指導
 - ・ 問題のねらい、
 - ・ 生徒の困難点、
 - ・ 指導上の留意点

以上のなかで「学力検査問題と学習指導」に記述の重点がおかれているので、この記述の態度についてややくわしく述べてみる。

学力検査問題を通覧すればわかるように、ふだんの学習指導で、この問題とまったく同一の形で学習内容がとりあげられるということはまずないといってよい。したがって、出題された問題に正しく答えることができるためには、ふだんの学習で獲得されるいろいろな知識が、この問題を解くことのできるように理解されていなくてはならない。出題された問題にかかわるいろいろな知識は、中学校で指導される学習単元のいくつかに関係しているわけだから、ここで述べる「指導上の留意点」もいくつかの単元にまたがることも当然である。したがって、この研究は学力検査問題個々について、それができるためにはどうしたらよいかというように、そのものずばりというわけにはいかない。「生徒の困難点」にしても、この問題ができないのは、あれやこれやの学習内容について、このように理解していないからであるとか、「指導上の留意点」もその問題を直接とくための留意点でなく、その問題にかかわる知識・技能などを、実際に展開される単元の構造・内容を想定して述べることになる。このよ

うなわけで、「学力検査問題と学習指導」の章節は、直接、学力検査問題をどう指導したらできるようになるかということだけでなく、この学力検査問題を、生徒の学力をみる一つの窓として、ふだんの学習指導でどのように指導することがたいせつかを述べたものである。

Ⅱ 社会科の学力

社会科の学力と一口にいうけれども、一体、社会科の学力といわれるものは具体的には何を指しているのであろうか。この間に直截に^{せつ}答えるとすれば、一つは社会科の学習指導要領に示された「目標」であり、一つは生徒指導要録の「学習の記録」における「評価・所見の観点」であらう。もっとも、30年度に改訂された現行の指導要録では「所見は従来の各教科・科目の分析目標とことなるものであり、これはあくまで個人内差異の評価のためのものであって、個々の生徒の特質を記入するものである」となっている。(注1)そして、一応所見の観点として

- 社会への関心
- 思 考
- 知 識
- 技 能
- 道徳的判断

を掲げているが、「その地域や学校の指導目標との関係で修正してもよい」(注2)としている。しかし、「各教科、科目ごとにこれだけはぜひ個人内差異の評価で忘れないようにという重要な項目」であり、「観点の項目は全然各教科、科目の指導目標ないし評価目標とは関係がないとはいいい切れないであらう」(注3)ともいっているから、この点、学力を分析する一つの観点となることができよう。このことは改訂前の指導要録で「学習の記録」の評価目標として

- 歴史・地理・経済・政治・社会などの基礎的な諸概念の知識・理解。
- 問題解決法を用いる能力、批判的な思考をなし得る能力。
- 他人の必要と権利との尊重、公民的技能の習得。

が掲げられており、これと現行の「所見の観点」を解説（注4）したものと比べると、大体、内容的には同一のものといえるのである。すなわち、

「社会への関心」（中・高） 社会の諸事象ならびにその歴史的背景、自然環境との関係などに関心をもち、みずから進んで問題を発見しようとする。（この観点は、分析的には、歴史的関心、地理的関心、政治・経済・社会的関心、道徳的関心等に分けて考えられる）

「思考」（中・高） では問題の追求にあたって自主的に創意くふうし、広い社会的視野から客観的に批判的に考える。（たとえば、学習の計画や手順を自主的に創意くふうする傾向や、偏見にとらわれずに各種の観点＜現実面から、学問上から、技術面から等＞から科学的に物事をみていこうとする考え方を評価する）

「知識」（小・中・高） 指導計画にもられた地理的、歴史的、政治・経済・社会的な知識を記憶し、いろいろな場合にこれをはたらかせて物事を考え適切な判断をしていく。

「技能」（小・中・高） 集団の共有物を正しく取扱う、いろいろな地図や年表を読んだり描いたりする。いろいろな専門書、報告、白書などの資料、統計、図表などを問題解決のために有効に利用する。

「道徳的判断」（小・中・高） 反省的思考にもとづいて道徳的価値の判断を適切に行なう。（身近な問題を通して人間生活や人生問題に対して正しい道徳観をもっているかどうか、具体的な行動をみて、その態度に着目して評価していく。しかも、行動の記録でないのだから知的な面をからみ合わせたものでなくてはならない）

とある。

この二つの指導要録の「所見の観点」・「評価目標」と学習指導要領の「目標」を考察すると、社会科の学力を構成する要素として、

知識、理解、思考、技能、態度、能力、関心など

に分析することができる。

しかし、これらは学力を構成する要素に分けただけであって、これを学力そのものとはいえない。むしろ、これらの要素がどのように関連し合い構造づけられているかが問題なのである。この点を解明するために別の角度から学力を考えてみることにする。

学力を「経験と学習の結果獲得したあれこれの力」ということは素朴な表わし方ではあるが別段異論はないと思う。しかし、これを「学校教育を受けることによって獲得した力」というように解釈すると、その意味は前者より限定されたものになるし、実際もまたそうである。この両者のいずれにしろ、「学んだ結果獲得した力」は、それが終着点なのだというように誰しも考えてはいない、——しかし、実際はそうでない状態も多いのだが——すなわち、学んだ力は新しい事態に対処して問題を解決できるものであることを期待し、かつ、前提としているはずである。このことは新しい事態に対処すること、すなわち、学習することができるための学力でなくてはならないことを意味している。だから、学力というものは「学んだ力」と「学ぶ力」の両者を含めているはずであるし、「学んだ力」が「学ぶ」に発展することを当然期待しているわけである。これを別な“ことば”でいえば生きて働く力の獲得ということである。そこで生きて働く力ということが問題になる。

ところで、学力ということと生活力ということを同一のものと考えてよいであろうか、あの人は学力があるという場合、その人の生活力が旺盛であることを指して一般にいうであろうか。また、学校での成績が社会に出てからの発展に一致するであろうか、もちろん一致する人も多いけれども一致しない場合も多くある。さらに独学という場合、社会生活全般について学習することを指していない。これは学問を学校教育によらないで自分の力で学んだということをおぼわしている。そうすると、その逆をいえば、学校で学ぶ主要な内容は学問であることを指しているのだともいえる。

以上のことは現在一般にもちいられている「学力」という“ことば”の意味である。だからといって現代の学校教育で「学力」をこのように単純に割り切つてよいという理由にはならない。現代の学校教育はオルセンのコミュニテース

クールの考え方をまつまでもなく、学校と社会を分離して、学校は学問を授ける所だと簡単に割り切ることは許されない。学校で学んだ力が生活力に結ばれるものでなくては現代の学校の存在意義は大半失われたものになる。しかし、そうかといって生活力の獲得がすべて直接経験によってであるとすれば——もちろん、経験によって獲得されたものがもっとも堅固な力であることを認めるものの——それはきわめて限られた範囲のものになってしまう。これに反して、現代社会に生きる一人一人は単に金銭を得て、それで食べ、住い、着ておるだけの生活であればよいということは許されない。なぜならば、政治に参加すること自体、主権者としての国民の民主主義社会の基本的な権利である上、その政治に対する判断は自国内の情勢にとどまらず、世界的規模においてなされなければならない現代は、一層広くまた深い情勢判断を必要とするからである。さらにまた、経験されたものこそ真に生きて働く力ということで、学校教育も社会の実生活を体験させる場とするのであるならば、何も学校を設けずとも社会生活の中に子どもを投入し、そこで経験させればよいのであって、あえて学校を設ける意義はなくなってしまふ。

そこで学校で教育するということは、現実の社会の中で経験によって学ぶということと、何か異った学習をさせるものでなくてはならないはずである。現実の社会の中で学ぶということとは、問題に遭遇して、その問題を解決していくということと同義である。この場合、問題を解決していくということが、やみくもに手当たりしだい、試行錯誤的に行動するというのであるならば、それはもっとも拙劣な仕方であり、偶然を期待するものだといってよい。人間の問題解決は多かれ少なかれ見透しをたてるはずであり、また、たてなくてはならない。これは解決案をたてることでもあるが、この解決案をたてる基盤は、その人のこれまでの経験とそれを一般化した表象であり概念である。そして解決案をたてることは既有概念の改造——観点あるいは機能の転換——なのである。この問題解決ということとは、これまでの既有概念と過去経験が豊富であり、かつ、脈絡をもっていればいるほど効果的に解決することができるかといってよいわけである。

ところで、個人の経験は前にもいったようにきわめて限られた範囲のものであるから、その狭い経験で解決案をたてることは容易でない。この場合個人の

過去経験だけでなく、他の人人のそれをなんらかの方法で自分のものにする
ことができれば、その人はより効果的な解決案をたてることができるはずであ
る。この場合、他人の経験や表象を自分のものにする方法は模倣することによ
ってできる。この模倣による場合もやはり自分の接することのできる人という
限られたものになるから、その範囲は狭くなる。より広いより深い経験を手に
いれる方法は“ことば”をもちいることによって始めて可能になる。すなわ
ち、“ことば”によって他の人の経験を手にいれる方法——これこそ人類が今
日の文化を築きあげた最大の理由であるが——これができればこそ人類の幾世
紀にも及ぶ経験の集積をわれわれのものとして獲得することができるのである。

この“ことば”によってあらわされた人類の経験の集積をわれわれは知識と呼
ぶ。すなわち、知識の獲得が解決案をたてるために欠くことのできない条件な
のである。そして、人類はこの知識の体系だてられたもの、すなわち、物や現
象の本質を追求し、その論理的構造を明らかにしようとする科学を成立させる
ことになる。これは物や現象の背後にある本質真理を追求するものであり、本
質を求めるということは、その抽象度がきわめて高くなることを意味し、した
がって外延はより広くなる。このことは科学の有用性をもっとも一般的である
ことを示している。したがって知識は科学として体系だてられていることが、
その有用性を一層保障するものだといえる。

この意味で学校教育においてまずとりあげられなくてはならないもの、すな
わち、学校教育の目標を知識の獲得におくとする考え方が成立する。そして、
その知識はあれこれのばらばらな知識でなく、科学へ発展するものであるとい
うことを前提とする。

先に掲げたように社会科の学力を分析して知識、理解、思考、技能、態度、
能力などに分類したが、この知識については、以上のように社会科の学力の中
に位置づけることができる。

ここで注意しなければならないことは、知識が“ことば”の定式をかりて表
現されるということが、“ことば”を“ことば”として発声したり読まれると
いうことになり、その発声と“ことば”が代表している物や現象と切り離して
独立した生理現象としてだれもが発現できるという性質をもつことである。こ

のことは“ことば”の意味するところ——経験——としてとらえず，“ことば”そのものを記憶する弊に陥ることがしばしば生ずる。したがって、このことは知識を与えるということが経験を“ことば”であらわしたものの、すなわち結果を与えるということになり，“ことば”のやり取りだけで知識の獲得がなされたというようになる。しかし、これでは“ことば”を記憶し“ことば”を発声することはできても、その“ことば”で考えたり、行動することはできないのである。

知識を与えるとか、知識を獲得したかどうかというとき、それにかかわる“ことば”を発声しえたとか文字で書いたとかいうことで、その知識もっているとか軽々に断定できないのはこのためである。

しかし、“ことば”を発声したり文字で表現しただけで知識もっているか否かわからないといったが、もし、その知識もっている状態が理解されているという思考過程で記録されており再生できるなら、その知識は生きて働くものだと判定することができる。

すなわち、理解はその知識が生きて働くものであるかどうかをあらわすものであり、単に“ことば”の丸暗記でなく思考がなされて記録されたかどうかを示すものである。つまり記録が思考という過程でなされているということが理解である。

このように理解をともなった知識が生きて働く知識であるが、その知識が理解をともなって記録されているかどうかを見る観点としてつぎのようなものがある。(注5)

- a 事物や現象を一定のカテゴリーにあてはめたり、特殊な事例をそれに対応する概念の下にひきいれたり、「これは何か」という問に答えることである。これらのばあいの理解は初歩的な形式において認知と一体になる。
- b 現象の原因、そのもたらす結果を明らかにすること、すなわち、ある現象を因果関係のある体系のなかにふくめること。あるいは、現象の起原やその発達を解明し（「なぜ、また、どのようにしてそれは生じたのか」「なんのためにそれは起こるのか」というような問に答えることを意味する）このような解明は現実の事物や現象のなかの本質的、法則的

な関連を明らかにする。

- c 人人の行動を理解するということは、その行動の客観的な原因、その行動の動機、その行動の目的、その社会的意義を明らかにすることである。
- d 理解はあるものが導き出される根拠を明らかにすることである。数学上の定理証明、数学問題のとき方の理解などがこれである。
- e ある物体がどのように構成されているか、それはどのような部分から成り、各部分はどのような働きをし、その相互作用はどうかを明らかにすることを意味する。

あらゆる種類のメカニズムの理解、有機体の構造とその活動の理解など。

f 言語の理解

外在的意味だけでなく内在的意味を理解する。

以上のことから、理解をつぎのように定義づけることができよう。

「理解は、現実の事物や現象のなかにおける本質的なものを解明する思考活動である」と。

われわれが知識を獲得させるのだという場合、当然、理解ということもその知識の性質として含まれているのだということははっきりしている。学習指導要領の目標では、しばしば理解させるという表現がでてくるけれども、これは以上のような意味では握したらよいと思う。

理解が思考活動の重要な地位を占めるものであるということを述べたのであるが、このことはもはや思考の問題にふれてきている。

思考とは、常に、すでにもっている知識（これからあれこれの結論がひきだされる）を媒介として行なわれるところの問題解決である。（注6）

したがって、生徒が新しい学習内容に接したということは生徒を問題場面においたことである。ところが、この場合教師がその解答を過早に与えることは、生徒に思考をさせないで“ことば”の定式をかりた結論を暗記させるという弊に陥ってしまう。

さて、思考ということについてここで述べる余裕はないが、つぎの点だけは

指摘しておかなくてはならない。それは、思考はすでにもっている知識の改造であるということである。このことはそれにかかわる内容をもっていなくては思考はできないということであり、具体的な内容をもたないで思考力をつけるなどということとはありえないということである。

ここでは以上のように知識、理解、思考の関係を意味づけることにしておき、つぎに能力、技能について述べてみよう。

能力について、

既存の知識を媒介として問題を解決することができるということは、知識を理論的な課題や実践的課題の解決に用いることができるということであって、この課題解決に知識を働かせることが能力である。すなわち、能力とは習得された知識を土台として意識的に遂行される実践的な行為のために人間が身につける用意のことであり、活動する知識のことである。(注7)

したがって能力は知識の内容と関連しているし、さらに実現の手段としての技能と結びついている。

技能は課題解決の場合、実践行為としてあらわれる。すなわち、行為は身体の意識的な運動であるが、この身体の運動は運動感覚として知識と結びついて、すなわち、意味づけされて大脳皮質に一時的な強固な結合がなされる。これが技能であり、技能は行為することによって獲得され定着する。

能力をたかめるためには、一般を特殊に適用する過程、すなわち、練習の過程が必要である。このことは練習の重要性を意義づけ、さらに反復練習によって獲得される習熟にまで発展させなくてはならない。戦後わが国で練習ということが軽視される傾向にあることはじゅうぶん反省の要がある。

以上、知識、理解、思考、技能、能力の関係について述べてきたが、これらの諸要素のほか、態度の問題があり、さらに、社会科では単なる知識を授けるのではなく、社会についての見方考え方をそだてるのだという意見が、つよく存在するので、これらの問題をこれまで述べた諸要素と関連づけながら簡単に述べることにする。

さて、態度と意識の問題であるが、態度とは一般に個人の反応を指向する心

的の構え(注8)を指すものであり、意識とは人間の現実反映の最高の形式であり“ことば”とともに発生し、“ことば”によってなされる。意識は社会的意識と個人的意識とに区別される。社会的意識の現象に属するものは自然、社会、人間の思考にかんして社会がつくった知識であり、個人的意識は社会の成員である個人の現実反映の最高形式である。したがって、個人の意識はその個人が周囲の人々と毎日のコミュニケーションの中で、教育の課程で、文学作品を読むさい、ラジオを聞くとき、映画をみるとき等々で習得する社会的に形成された表象、概念、思想によって制約される。(注9)

以上のことから個人的意識の問題はその人によって獲得された現実反映の最高の形式、すなわち、その人のもつ知識の総体であり、それは、社会的意識をその人の生活や活動の状況、その人の人格的特質によってつくりかえて獲得されたものである。したがって、意識の問題は態度に依存し、また逆に態度を規制することになる。しかも個人の意識は客観的意識の主観的反映であるけれども、社会の形成した知識を獲得する形でおこなわれる限り、その習得された知識の内容が判断の方向(見方や考え方)を決定づけ、それゆえに意識とはその人のもつ知識の総体であるとされるのである。

学習指導要領の目標が、意識とか態度の形で表現されていることは、やはりそれなりに意味のあることであって、社会科の目指すところが実践的な社会人をそだてようとするものである以上、その目標をこのように表現するのは当然である。そこで問題はむしろ、この目標を達成するためにどのような内容と方法によるのかということなのである。

どんな内容でということとはこれまで少しもふれなかったが、これについては昭和30年2月に発表された第五回中間発表の「中学校社会科の目標および内容について。1、中学校社会科の基本目標について」でつぎのように述べている。「……中学校の社会科では、その目標達成のためにこれまでに述べたような趣旨による地理教育、歴史教育、政治、経済、社会に関する教育を行なうものであって……」。すなわち、社会科の目標を地理、歴史、政治、経済、社会を内容として指導することによって達成しようとしていることははっきりしている。さらに、33年に発表された改訂社会科指導要領では一年で地理的分

野，二年では歴史的分野，三年では政経社の分野を学習内容として指導することを原則とし，その内容の大綱も示されているので，これ以上このたびはふれないことにする。

以上，社会科の学力について述べてきたが，今一度要約していえば，つぎのようにまとめることができる。

「社会科の学力は，地理，歴史，政治，経済，社会についての知識（ここでいう知識はこれまで述べてきたような意味での知識であることはいうまでもない）を習得し，その知識が理論的な課題や実践的な課題を解決することのできるような能力にたかめられ，かつ習熟したものであること」

さて，知識の獲得と思考力を獲得することとはどのような関係にあるか。しばしば社会科のねらいは考える力を獲得させることだといわれるけれども，前に述べたように内容なくして思考力を獲得させるなどということはありえない。たしかに思考力を獲得させるということはたいせつなねらいである。しかし，それを獲得する過程は知識という内容の獲得の仕方の中にあるのである。このことはこれまで述べてきたことで明白であるが，知識獲得の過程で得られるものは思考力だけでなく，知覚，記憶力，想像力，言語力なども得られるのであるから，これらに思考力を含めて認識力と呼ぶことができる。それで認識力の獲得についてつぎのようにまとめられる。

「科学的な知識の正しく組み立てられた習得は同時に生徒の認識力の発達の過程である」と（注10）

この認識力の発達は学ぶ力＝問題解決力の獲得を意味する。したがって社会科の学力をさらにつぎのようにいいあらわすこともできよう。

「社会や社会生活についての体系だてられた知識＝科学を社会のさまざまな問題を解決していくことができるように獲得されている総合的な能力」

以上の社会科の学力についての考え方は一つの試案であって，このことは学習指導の実際に即して今後さらに検証し，学力の構造や，学力の形成過程を究明することによって，学習指導法の改善に資したい。

参 考 文 献

- 注 1, 2, 3, 4 新潟県教育委員会 指導要録記入の手引 1957年改訂版
5, 7, 10 エム・ア・ダニロフ教授学(上) 矢川徳光訳 明治図書
ベ・ベ・エシポフ
6, 9 ソビエットの心理学Ⅰ スミルノフ主監 明治図書
教科書
8 大脇義一 心理学 培風館

Ⅲ ペーパーテストと学力の評価

学力を構成する要素として、関心、知識、思考、技能、能力、態度を学習指導要領や生徒指導要録から分析することができるけれども、これらの要素をこれまで述べてきた学力の考え方から、つぎのように整理することができる。

知識(理解をともなった) 認識力(知覚, 思考力, 記憶力, 想像力, 言語力) 技能, 能力, 関心, 態度

これらが獲得されているということは、大脳生理からいえば、第一次信号系と第二次信号系の形で大脳皮質に一時的な強固な結合がなされているということであり、それはいいかえれば、第一次信号系と第二次信号系とが大脳皮質に記銘されているということになる。したがって学力を評価するということは、この記銘があるかないかを再認あるいは再生させてみることである。そして、その記銘されているものが理論的な課題や実践的課題を解決することができるかどうかをみるのは、能力や態度があるかどうかを評価することである。さらに思考力は、この課題解決のさいに新しい事態に対処し得るように、記銘されたものを操作し、改造し得るかどうかによって評価することになる。

ペーパーによるテストは、第一に、記銘されたもののうち“ことば”や記号で保持されたものを再認あるいは再生させることであり、これは主として知識が記銘されているかをみる。第二に、理論的な課題を与えてそれが解決できるかどうかをみることによって、知識が理解をともなって記銘されているか、すなわち、思考力、想像力、言語力、技能、能力はどうかをみることになる。さらに、記述を要求する場合や図上の作業を要求する場合には言語力や技能を評価することが可能になる。なお記述することは、自分の“ことば”で再生できるかどうかということであって、それは理解が確かなものであるかどうかを判

定する上に特に効果的である。

態度は個人の反応を指向する心的的の構えが行為を通してあらわれるものであるから、一般にペーパーテストによって評価しようとすることは困難である。なぜならば、ペーパーテストで解答を求めることは、その心的傾向を“ことば”で表現させることであり、その“ことば”の意味することと行為が一致するとは限らず、心的傾向をみるためにはある期間継続的に観察し、その恒常性において判断しなくてはならないからである。しばしば、態度をみると称して、ペーパーによるテストがなされるのをみうけるが、これは意識をみることであって態度そのものではない。なるほど、意識と態度は密接なつながりをもっているけれども、意識と態度とを同一のものとするは無理である。このことはペーパーテストの限界を示すものである。

Ⅳ 高校進学学力検査問題と学力の評価

これまでに実施された本県高校進学学力検査問題のうち、社会科のそれはすべてペーパーテストであるから、Ⅲで述べたように、ペーパーテストによって評価される学力と、その限界をこえるものではない。そこで、最近五か年間の社会科の問題を分析してみると、問題の内容、設問の形式から、問題をつぎのようないくつかの類型に分類することができる。

- a 認知（意味をともなった知覚）力をみる問題、これは事物や現象を一定のカテゴリーにあてはめたり、特殊的な事例をそれに対応する概念のもとにひきいれたり、「これは何か」というような問に答えるものである。
- b 事実に側面の再生を要求する問題。（どうしてこうなったか、これは何か、これはどのようにしておこなわれたのか、このあとに何がくるのか、これは何からなっているのか等々）
- c 事物や現象を比較する問題
- d 事実、できごと、登場人物の特徴づけを要求する問題
- e 材料の総合化や体系化を要求する問題

- f じぶんにとって新しい事実を既知の知識を使って説明する生徒の能力をみる問題

V 記述の形式について

学力検査問題と学習指導の章の記述の仕方について、あらかじめ、ここで説明しておく。

30年度〔7〕とあるのは、昭和30年度に高校第一学年に入学を希望する生徒を対象にしておこなわれたものであり、したがって受検生はだいたい29年度中学校卒業生とみてよいことになる。〔7〕は社会科の問題の排列された順序、すなわち、第7番目の問題の意味であり、検査用紙に記載されたとおりを示している。

(30.7) あるいは(イ、—70.1 ロ、—43.5)と記載してあるのは、全県下の高校受検生(その中には不合格も含まれている)のうち約30%を無作為抽出した場合のその問題についての正答率%を示し、イ、ロは同一の番号内の分割された問題のおのおの正答率である。

- 解説
- 1 は主としてその問題のねらいについて述べた。
 - 2 はその問題ができるために、どのような点が生徒の障碍であるのか、問題そのものからくる困難点や、生徒のふだんの学習状態からくると思われる困難点などについて述べた。
 - 3 はこの問題ができるためには、ふだんの学習指導にどのような配慮をし、どのような点に留意したらよいかを学習内容、学習指導法の両面から主として述べた。

分野別学力検査問題一覧表

年度	地 理 的 分 野				
	郷 土	日 本 地 域	全体として の日本	世 界 地 域	全体として の世界
30 年 度	[5] 米の 収穫高と 作付面積 の変化 (グラフ)				[1] 工業 地帯の位 置 (地図)
31 年 度		[8] 中部地 方の農業の 特色	[10] わが国 の貿易の戦 前戦後の変 化 (数表)	[9] アマ ゾン川流 域の地誌 (地図)	
32 年 度			[1] まぐろ 船漁港につ いて	[2] イン ド、パキ スタンの 気候と農 業 (地図)	
33 年 度		[3] 高知の 二期作	[2] 製鉄所 の分布と立 地条件 (地図)		[1] 世界 の米、綿 地帯 (地図)
34 年 度		[1] 北海道 稲作の北進 (地図) [2] 奥羽線 と中央線の 景観		[3] 東南 アジアの 都市(地 図)	

歴 史 的 分 野					
原 始	古 代	封建前期	封建後期	近 代	全 体
	[10] 大化改新			[10] 明治維新	[8] 各時代の文化の特色
比較					
		[4] 鎌倉時代以後の郷土の史実と年表 [5] 宋との関係		[5] 清との関係	
[5] 四大文明発生地と農耕	[9] 奈良仏教の特色	[9] 浄土真宗の特色			
			[5] 鎖国	[4] 憲法制定、日露交渉、人権宣言	
	[5] 空海と金剛峯寺	[5] 藤原三代と金色堂	[5] 蒙古来寇と博多	[5] 開国と神奈川	
(地 図)					
				[6] 1850以後の民主政治発達と世界の民主主義の発達(年表)	

政治・経済・社会的分野

民主主義	政治	経済	社会	文化	国際関係
〔7〕 民主主義発達の史実	〔9〕 基本的人権の分類	〔3〕 エンゲルの法則(グラフ) 〔6〕 国際収支と外貨	〔2〕 出産と死亡(グラフ)		〔4〕 国際連盟と国際連合の比較
〔2〕 民主主義の考え方とことわざ 〔3〕 イギリスの民権の伸張	〔1〕 国会の権限 〔7〕 明治政府の産業振興と太平洋戦後の民主化の政策	〔6〕 家計の経済			
	〔3〕 農地改革(グラフ) 〔8〕 地方自治普通地方公共団体の種類	〔4〕 景気の変動	〔6〕 年齢構成, 都市といなかの相違(グラフ)		〔7〕 国連加盟 〔10〕 平和条約と安保条約の締結
〔7〕 民主的な考え方	〔8〕 社会保障制度	〔6〕 石炭消費の変化と原因(数表)			
	〔7〕 基本的人権の分類	〔8〕 戦前戦後の貿易の変化と特色おもな品目の輸出国(グラフ)		〔4〕 三大宗教の発生地と布教地 東南アジアの宗教(地図)	

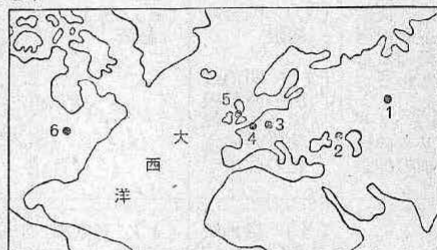
学力検査問題と学習指導

I 地理的分野

30年度〔1〕

つぎの工業地帯は、どこにあるか。地図に示してある場所の番号を選んで（ ）の中に書きなさい。

- イ.() マンチェスター工業地帯
- ロ.() ウラル工業地帯
- ハ.() 五大湖工業地帯
- ニ.() ライン工業地帯
- ホ.() ベルギー工業地帯



(イ—69.4 ロ—60.0 ハ—79.0 ニ—32.0 ホ—36.8)

解 説

- 1 上の各工業地帯の位置を地図上でさし得るかどうかをみる問題。すなわち地名を地図の上で記銘しているかをみるものである。地名の記憶をただ「ことば」でもっているだけでなく、空間における地点位置として常に地図と結びつけ、その地図を脳裡に描きうるように習熟していることがたいせつである。
- 2 この五つの工業地帯のうち、ラインとベルギー工業地帯の正答率が低い。この二つはあまり深くふれない所であるから生徒の記銘も確実でないのかも知れない。
- 3 記憶を確かなものにするには、a「印象の強いこと」、b「反復練習」、c「そのことにかかわる過去の経験における連合の豊かさ、連合の多様性があること」などであるが、この場合は工業地帯名を「ことば」でおぼえるだけでなく地図で見い出したり、さらに、白地図に記入するなどの作業を伴なえ

ば一層確実に記銘される。地理的分野の指導で地図を用い、描図作業をすることが基本的な指導法であることなど、今さらいうまでもないことである。

連合の多様性ということからみると、イのマンチェスターはわが国の綿業の競争者としてしばしば引用され、大阪を東洋のマンチェスターといったりするし、ロのウラルは欧亜を分ける境界線としてのウラル山脈に連合し、かつコンビナートというソ連独特の工業形態と結びつけ、その代表的なものとして指導される。ハの五大湖はアメリカ合衆国の五つの湖を指すものであることから、五大湖といえば、すぐアメリカを連想するくらいに指導されてよいはずである。ラインとベルギーはどちらも西ヨーロッパの工業地帯であるがラインはライン河との連合で、ベルギーはベネルクス三国の中に位置つけて指導されれば、その関係位置はそう判別に困難でないはずである。

以上のような、いろいろの連合を伴って理解していることが、このような問題を解く学力ということができるから、指導に当っては、ただ工業地帯名を教えるだけでなく、その分布、立地条件、主要工業の種類などを指導することがたいせつである。

30年度〔5〕

右のグラフは、本県の米の収穫高と、稲の作付面積とをあらわしたものである。

イ この二つのグラフをみて、つぎの____の上に適当なことを書きなさい。

明治12年から昭和24年までの間にa

増加はわずかであるのにくらべてbは約c倍になった。

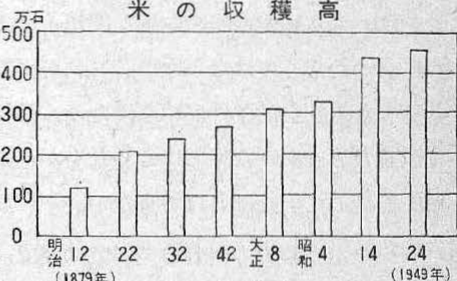
ロ 明治12年と、昭和24年との米の収穫高に差がみられるのはなぜか。

その理由を三つ簡単に書きなさい。

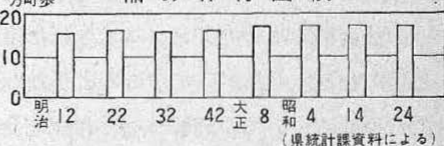
1 _____ 2 _____ 3 _____

(イ-73.3 ロ-43.6)

米の収穫高



稲の作付面積



(県統計課資料による)

解 説

- 1 この問題は、一つは新潟県の米の収穫量と稲の作付面積を示すグラフを読むことができるかをみるものであり、一つは米の収穫量の増加した理由をどれだけ理解しているかをみるものである。前者については示されたグラフを文章化するということであり、後者は二つのグラフを比較し、そこから読みとれる条件と既知の知識をつかって理由を述べさせようとしているのである。
- 2 イの正答率は73.3%で高い。これは地理的な考察力がなくても棒グラフの読み方がわかれば答えられるためであろう。それに比べてロの43.6%は後にも述べるが記述形式に対して弱いことをやはり示している。この問題は稲作が成立するための基本的な条件をどれだけ理解しているかをみるわけであるが、この提示されたグラフで耕地の拡張がないということから、単位当たり収量の増加であることを読みとらなくてはならない。これが困難点の第一である。つぎに、稲作を左右する条件として気候が大きいけれど、この点、明治12年以来昭和24年に至る間、大きな変化はあり得ないから、これから考えることは、ある特定の年の収穫を問題とするものでない以上無理であるという点に気づかなくてはならない。これが困難点の第二である。そうすると自然条件でなく社会的条件が中心になり、品種の改良、化学肥料の使用増加、土地改良などをあげなくてはならないが、これらの稲作を成立させる条件を理解し記憶していなければできない。
- 3 グラフを読む力の指導については後で一括して述べることにするが、数学の指導と社会科の指導では効果的な重複は望ましいが、おのずから限界があり、社会科ではそのグラフに示された現象を解釈するということが指導のねらいになる。したがって、このような問題に対して、稲作を成立させる基本的な条件についての理解——これは社会科のみでなく理科ともじゅうぶん連絡がなくてはならない——を郷土の問題を指導する際に具体的な事例をとりあげて指導すること。さらに、日本の農業を指導するとき、a 日本農業の発達がどのような形で行われてきたか。b 各種作物の競合関係の時代的变化、c 日本農業の問題点——機械化、兼業化、有畜化、共同化等——をとり

あげ指導するならば、その一環としての新潟県の稲作についても一層理解を深めることになる。

31年度〔8〕

つぎは、北陸地方・中央高地・東海地方の産業に関係あることがらである。このうち、北陸地方と中央高地とにあたるものはどれか。それぞれあてはまるものの番号を()の中に書き、また、そうになっている理由を簡単に書きなさい。

- 1 茶やみかんなどの栽培が盛んである。
- 2 米の単作地帯が多い。
- 3 養蚕業が盛んである。

イ 北陸地方() 理由 _____

ロ 中央高地() 理由 _____

(イ-32.0 ロ-23.7)

解 説

- 1 これは中部地方の対照的な三地域について、各地域の農業よりみた特色をどの程度理解しているかをみる問題である。まず、どの農業経営はどの地域の特色を示すものかをみるわけであるが、これは三地域の地域性をあらわす概念の一つの側面を記銘しているかどうかを再生させたものである。つぎにそのような現象の生ずる理由を問うわけであるが、このように記述させる形式は生徒がこの理由について記銘している内容を自分の“ことば”で再生できるかどうかをみるわけであって、これは理解がより確実であるかどうかを過去経験における連合の豊かさ、その多様性があるか、さらに、そのうちでも、もっとも本質的なものに対応する連合があるかをみるわけである。特に理由を簡単に書きなさいという要求であるから、連合の多様性を求めるより、本質的なものをもっているかを問うものであると解すべきであろう。
- 2 五か年間を通して全般に記述形式の問題は正答率が低い。この問題もその例にもれず、イが32.0%、ロが23.7%である。1でも述べたように自分の“ことば”で再生できるということは、理解がより確かであることを示すものであるが、そのためには思考をともなった学習の過程が必要である。したがって生徒の困難はこのような学習を通らず、丸暗記で記憶するというとこ

ろにあるようである。

- 3 ある地域の特色を知るためには他の地域と比較することが有効である。この問題は中部地方の自然的にも社会的にも対照的な三地域の地域性をどのように記銘しているかをみる問題であるが、そのためには、まず、三地域の地理的位置を地図上に描きうるようになっていなければならないし、さらに、このような問題形式にあってはその地図を脳裡に描くことができなくてはならない。

三地域の農業の特色は、新潟県が北陸地方に属していることから、新潟県が米の単作地であることを記銘しておれば、1は2であることに容易に気づくはずであり、このことは直接的な経験もあるわけであるから、理由を記すこともそう困難と思われない。口が3であるということはそれ自体たいして困難なものではないであろうが、その理由という、この正答率が示めすようによくできないのはなぜだろうか。農業生産は第二、第三次産業にくらべると自然条件の制約が大きいということなど指導の際のたいせつな着眼点であるが、それと同時に人間が自然に働きかけるということの経済的な観点も基本的な考え方として大切である。例えば、「東書」の新しい社会① 日本の自然と生活、98ページに「世界一の養蚕業。盆地や扇状地や川岸の台地は、水利が悪く、水田に適さない。そのため桑が植えられ、農家ではさかんに蚕を飼っている。」と出ている。この文章はきわめて短い表現であるけれども、養蚕の盛んな理由を簡けつに述べている。すなわち、水田に適さないということは水田耕作が有利であるけれども水田化しても経済的に不利であるために桑をつくり蚕を飼うのだという考え方である。このことは現在わが国の農業経営の基本的態度につながる問題である。実際の指導にあたり、このような考え方で地域性のは握につとめることが望ましい。

右の南アメリカの略地図を見て、つぎの間に答えなさい。

イ アマゾン川はA, B, C, Dのうちどれか、正しいものを選んで、その符号を○でかこみなさい。

ロ つぎのことがらのうち、アマゾン川流域地方にあてはまるものには○を、あてはまらないものには×を()の中書きいれなさい。

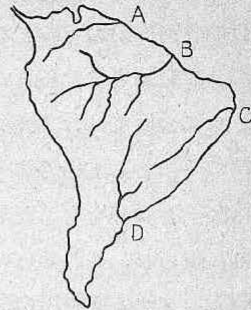
() 1 日本移民も最近入植しはじめた。

() 2 ゴムの栽培は将来有望とみられている。

() 3 コーヒーの栽培が盛んである。

() 4 原住民は森林をひらいたわずかな畑を耕して生活している。

(イ-82.5 ロ-/6.1)



解 説

1 この問題のイは、30年度〔1〕の問題と同じように地名を地図の上で記録しているかをみるものである。ロはアマゾン川についての概念の諸側面の一部を記録しているかどうかをみる問題であるが、ここにあげたものももっとも本質的なものかは若干疑問である。ただアマゾン川についての連合の多様性をみることと、この年に新潟県からもアマゾン移民が送られたこととも関連して時事的な関心があるかをみたものである。

2 ロの正答率が16.1%であることはアマゾン川流域に関する概念は握が適確でないことを示している。こうした状態を生じたのは、a. ブラジルではコーヒーに重点がおかれ、アマゾン川流域のセルバスについて軽く扱われていること、b. ゴムの栽培が将来有望であるという反応は、社会的要因を考える進んだ生徒にとっては困難であること、c. 日本人移民は台地のコーヒー園に多いという理解はあったが、最近入植しはじめたという指導がじゅうぶんなされていなかったこと、d. 原住民の生活は世界的意義をもたないので、ほとんど扱われなかったのではないかと考えられる。

3 イについては、ロとの連合において記録させることがたいせつである。ま

た、気候との関係も深いから、アマゾン川の河口に赤道の通っていることを地図上で指摘させることが必要である。さらに、ここに示したA、B、C、Dの各河川がおもにどこの国を流れているか国と結びつけ、その国とのつながりで記銘させたらよい。

ロについては、アマゾン川流域の特色をブラジルを理解するたいせつな指標の一つとして指導すべきである。すなわち、ブラジルは南米における最大の国土と資源を有しながら、人口と資本および技術の不足で、その開発が一部に限られ、これからの国であること。そのため、わが国からの移民も多く資本もミナス製鉄所の開設などで熱心に迎えられていること。アマゾン川流域も自然条件のきびしさから開発が遅れ、野生ゴムの発見からマナオスを中心に一時急激に発展したものの、マラヤの栽培ゴム園に圧倒され今は衰えたこと。ようやく近時ジュート、こしょうの栽培で開発の目途がついてきたことなど、そして、このこしょうの栽培は日本人移民によって成功し、この地域は日本人移民を迎えて開発を計っていること。ブラジルは、同一の時点で原始と現代が同居している国であることなどの連合において記銘されたらよい。

32年度〔1〕

日本のまぐろ船は、遠く赤道附近まで出漁している。これについてつぎの間に答えなさい。

イ. つぎにあげてある港の中で、これらのまぐろ船の基地はどこか。つぎのうちから二つ選んで、その番号を○でかこみなさい。

a. 三浦(三崎) b. 舞鶴 c. 四日市 d. 枕崎

ロ. まぐろ船の基地は、漁獲物の水揚げのほか、どんな役割もっているか。つぎにおもなものを二つかきなさい。

(32年度 イ—53.6 ロ—/6.8)

解 説

1 水産業はわが国にとってひじょうに大きな役割もっている。それは国民の

食生活における動物性たん白質の補給源として、また貿易における輸出品として、まぐろのかんづめはしばしば日米間の問題になる。さらに李ライン、北洋漁業の制限などで国民の関心はますます大きくなっている。このような状態は水産業の重要性を如実に物語っているが、このような水産業特に漁業は沿岸、近海漁業の不振から遠洋漁業が一層重要視されるわけである。このような視点から生徒が遠洋漁業についてどのような知識をもっているかをみるのがこの問題である。

2 ロは基地という概念がどのような知識で構成されているかをみたわけであるが、設問の内容を読んでみると遠く赤道付近まで出漁していると説明している。この点からも直接まぐろ船の基地について学習したことがなくても推測できそうである。ただこの問題形式であると、生徒はどのような高度の内容を要求しているのかということや常識的な内容を取りあげなかったのかも知れない。正答率が16.8%であるということは、このへんの事情を示しているのではないとも考えられる。

3 海洋学で海流の問題は重要な部門を形成しているが、中学校でとりあげる海流についての知識は三つの場合が考えられる。一つは気候因子として世界諸地域の気温に及ぼす影響、その好例として湾流によるヨーロッパ大陸の等温線の分布がある。二つには海流と海上交通の関係。いま一つは海流と漁業特に海流と魚類の関係がある。まぐろは黒潮にのってわが国の太平洋岸を北上するという知識を得させることは、この問題を解く上にはなんといっても基本的な理解になる。

まぐろ船の基地の問題も、漁業が沿岸、近海、遠洋に分けることができ、遠洋漁業は一度出港したならば一月も二月も操業して帰港するのだから、それに対するいろいろな準備や対策が必要であるということや考えつくように指導されなくてはならない。これはふだんの学習において、いろいろの知識をすぐ生徒に与えるのでなく、生徒が自分でみい出していくという生産的な思考がなされるように教師が指導するということである。

下の図は、インド地方における雨量図と小麦地帯図である。これを見て、つぎの間に答えなさい。

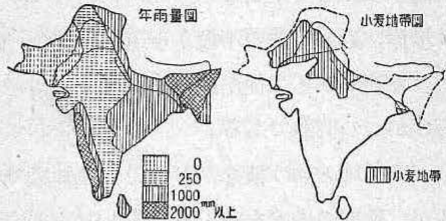
イ. インダス川流域はなぜ雨量が少ないか。その理由を書きなさい。

理由

ロ. インダス川の流域は、古くは小麦の生産が不安定であったが、近年は生産が安定してきた。そのおもな理由を書きなさい。

理由

(イ—15.9% ロ—23.2%)



解 説

1 インドの気候は熱帯季節風が支配的な位置をしめている。イの問題はこのことを想起することができるかどうかをみる問題である。提示された年雨量図からインダス、ブラマプトラ、ガンジスの三河川のうち雨量のもっとも少ないのはインダス川流域であるから、どれがインダス川であるかはすぐ気づかなくてはならない。そうすると季節風の吹く方向特に雨期の季節風の方向が記銘されておれば、インダス川の流域はこの季節風の影響が少ないことに気づくはずである。

ロの問題は降水量の非常に少ない地帯に小麦の生産があるのだから、降水量の不足は灌がいによって耕作しているのではないかという点に思っていたかどうかをみる問題である。これに気づけば近年小麦の生産が安定したというのであるから、この灌がい施設が一層整備拡充されたのではなかろうかという点をみいだすかどうかということになる。

2 この問題は正答率が、イで15.9%、ロで23.2%でよいとはいえない。特にイが低いけれども、「なぜ雨量が少ないか、その理由を書きなさい」という、「なぜ」「その理由」ということをどう解釈したらよいかの問題である。降水も風も気候要素であって季節風という現象の要素である。したがっ

て、「なぜ」という現象の生ずる理由を求めるとすれば、それは気候因子を問題にしないでならないはずである。この問題の場合、同一現象内の内的関連を求めていることになるが、これらは生徒にとってなかなか困難なことである。

- 3 インドの自然はわれわれが考える以上に強烈な力で人間を圧倒しているという認識をもつことは、インドについて正しい概念を与えるために忘れてならないことである。この点インドの気候を理解する着眼は季節風を第一にあげなくてはならない。しばしばインドの気候について、インドはわが国でいうような季節はない。あるのは暑い、より暑い、もっとも暑いという気温による区別か、乾季と雨季の二期に分けるかである。この後者に特に関連をもつのが季節風である。このように世界の諸地域を指導する場合、もつともその地域の特徴を顕著にあらわすものを指標にとり地誌を展開するということがたいせつである。

ロの問題のように乾燥地農業の特色はあえてインド、パキスタンだけの問題でなく、中近東、サハラ砂漠週辺の地帯、ソ連のウズベク、トルキスタン、チリなども、その例にもれない。したがって地誌を指導する場合、その特殊性のみとりあげるのではなく、一般性もじゅうぶん配慮しなくてはならない。そのような一般化されたものを獲得しておれば、パキスタンの小麦栽培にしろ、乾燥地農業と灌がいとの関係に当然気づくことになるのである。

33年度〔1〕



る農産物名を書きなさい。

左の地図は、米・小麦・綿花・さとうきびのうち二つの農産物の世界におけるおもな産地の分布を示したものである。

この分布図のaとbの記号は、それぞれどの農産物をあらわしたものであるか。()の中にあてはま

aの答()

bの答()

(70.3)

解 説

- 1 この問題に示した地図のように、米と綿花の分布を同一の地図にあらわしたものに生徒はおそらく接したことがないと思う。そうすると、この問題を読んで、生徒は既習の知識からここに示された四つの農作物の生産地を想い出し、これとこの地図の分布の状態を照合するという思考の操作を行うことになる。いわば、各地域ごとに獲得した地誌の知識を世界全体に総括するという能力があるかどうかをみる問題である。
- 2 この問題の正答率は70.3%であるから、生徒の大半はこのような思考とその基盤になる知識を保有しているということが出来る。しかし、分布をみるということは、その限界がもっとも問題になる。そして、その農産物の分布を二、三の地域で限界をみるのではなく世界全体でみる必要があるのに正答できない約30%の生徒はこの点が不じゅうぶんであったのではなかろうか。
- 3 分布図を指導するとき、その限界が重要であるということを前に述べたが、たとえば、この問題にあげた農作物の分布というときなどは、その分布図をそのまま記憶せよといっても無理であるし忘れることも速い。農作物の分布が自然条件と深いつながりをもっていることはいうまでもないことであるが、特に気候と土地の制約が大きい。このことは分布を考える場合にも当然考えなければならないことであって、地形における傾斜度が一般に15°から25°が限界であってそれ以上の傾斜地は畑作といえども困難である。したがって地球上で農耕の営まれる地形はおのずから、その範囲は限定される。さらに気候を考えてみると年降水量が250mm以下では農作物の栽培は困難である。このように分布は自然的条件と社会的条件と関連づけて理解させるように指導することがたいせつである。そうすれば、直接分布図を見たことがなくても、このような問題はこれまで習得した知識をもとにして思考し、判断することができるわけである。

右の図のAからEまでの符号は、わが国のおもな製鉄所の所在地を示したものである。これを見て、つぎの間に答えなさい。

- イ. 地図に示した製鉄所の所在地は、つぎのどれか。その符号を()の中に書きなさい。
 川崎市(^{さき}) 八幡市(^{はた}) 釜石市(^{かま})
 () 室蘭市(^{むろらん}) 姫路市(^{ひめ}) 広畑

- ロ. つぎにあげたものは、地図に示した土地に製鉄所ができたおもな理由を述べたものである。どの土地にどれがあてはまるか。あてはまると思うものの番号を()の中に書きなさい。



1. 鉄鉱石も石炭も近くに産し、また港湾にのぞんでいる。
 2. 鉄鉱石も石炭も近くにないが、鉄鋼の大消費地に近く、また港湾にのぞんでいる。
 3. 鉄鉱石の産地に近く、また港湾にのぞんでいる。
 4. 石炭の産地に近く、また港湾にのぞんでいる。
- A () B () C () D () E ()
 (イ—80.0 ロ—17.0)

解 説

- 1 この問題も地名が地図上の位置と結びついているかをみることに、その地名が本質的なものと連合して記銘されているか、すなわち、理解内容はどのようであるかをみる二つの問題からできている。したがって、地名を地図上で示すことは機械的な暗記でもある程度可能であっても、それが理解をともなったものでないと、この問題は完全にできない。この意味で、イの正答率が80.0%で高いのに、ロのそれが17.0%で低いのは理解をともなった記銘でないことを示すものといえよう。
- 2 ロの正答率が低いのは、つぎのような生徒の困難があったからであろう。
 - a 選択肢を二回つかうという問題形式になれていないこと。
 - b 製鉄所のみでなく、工業の立地条件という一般的な指導が行なわれてい

ないこと。地誌が重視されているため特殊性はかなりよくは握られているが一般性のは握が不じゅうぶんなのではないか。

c ある現象とその分布までは知っているが、その属性に関する理解まで深まった知識をもっていないこと。

3 ここにあげた都市はわが国の著名な製鉄所の所在地である。したがって、わが国の工業地帯を理解するたいせつなキーポイントの一つであるといえよう。それであるからこれを地図上で示すことは80%で高く、おそらくどの生徒も一度は学習し、どの中学校でも指導しているにちがいない。しかし、これらの地点に製鉄所があるということだけでは不じゅうぶんである。たとえば、それが工業地帯を理解する第一歩であるとはいえ、学習程度としては浅いといえよう。工業の立地条件は経済的な因子が強くはたらくものであり、それはまた変化するものでもあるから、設置された時の条件と現在も操作されている条件は変っているものもある。それで、この問題は設置された条件を問うものであるが、おのおの設置された年代も異なるから、どれが主要因であるかは問題になる。しかし、工業立地の条件として、原料・燃料・消費地の関係は基本的なものとして忘れることはできない。この問題で示した選択肢の内容も、この意味で、もっとも基本的なものをあげたわけである。

ふだんの学習指導でも、現象にとらわれて、本質的なものの解明を忘れては、たとえ指導方法がすぐれており、生徒が確実に記憶しても、内容的には不じゅうぶんなものといわざるをえない。

33年度〔3〕

高知平野では、まえから米の二期作が行われているが、なかにはこの二期作をやめて一期作にし、野菜の促成栽培を行う農家も多くなってきた。その理由を書きなさい。

答

(33.9)

- 1 この問題は生徒の理解が自分の“ことば”で再生できるくらい深いかどうかをみたものである。そして、その理解の性質は、このような設問の内容が導き出された根拠が何んであるかをみているのであるが、そのためには、二期作と促成栽培という術語の意味内容をどの程度つかんでいるかということになる。さらに、この意味は握を高知平野という個別に適用することができるかどうかということ。すなわち、農業生産における自然的、経済的条件がどのような関係をもっているかという関係は握ができていてもみるわけである。
- 2 ねらいでも述べたように、生徒の困難点の一つは術語の理解が不じゅうぶんということであり、一つは関係をどのようにつかんで表現したらよいかということであろう。記述形式の問題は一般にできが悪いようであるが、そのうちでも、この問題は33.9%で比較的良いようである。
- 3 わが国における米の二期作として、代表的に取りあげられる地域がこの高知平野である。ところが、この二期作を単純に米を一年に二回つくるというように指導し、収量が多くなるという点にのみとられる心配が多分にある。このような表面的な指導内容におわると、この問題を解くことはできない。なぜ二期作を行なうのかという疑問に答えるためには、その収量が香川県や岡山県の一期作の収量と同じかむしろ少ないのだという事実を示してやることである。そうすると二期作でも少ないぐらいだから一期作であればなおさら少ないということは簡単に判断される。そこで、高知平野のように高温多雨の米の適作地でなぜ一期作の収量が少ないのかを考えさせたらよいことになる。これは台風の被害をできるだけ少なくするため早稲を栽培し、刈取を早くするので収量が少なくなるのである。したがって労働量の投入から考えても経済的にきわめて不利な二期作を有利な換金作物に転換をはかることは必然であるのに、それが最近までなされなかったのは、消費地と結ぶ交通事情の不利によるものであったこと。それが鉄道の開通や、海上交通の改善によって可能になったので、高温を利用する促成栽培に転換したわけである。

3 ここに示された地図や教師の説明を受けた生徒ができないということは、その記銘が確実でなかったことをあらわすが、このような記憶を強固なものにする方法は、連合の多様性をもたせるということであるし、意識的な記憶であるから、その問題意識がどのようなものであったかを考えなければならない。この点は1に述べた考え方などは一つの示唆となるであろう。

いま一つの場合、すなわち、このような地図にも教師の指導にも接したことのない生徒がこの問題を解くには、どのような指導がふだんなされていなくてはいらないか考察してみたい。

まず、農業は自然の制約をまだまだ大きく受けるという基本的な理解がなくてはならない。そして、それは気候と土地が大きく関係すること。この問題の場合は気候、特に気温との関係を問うものであるから、この点についてのみ述べてみる。

まず、北海道の気候の特色、特に気温は冷涼であること。しかし、7、8月は渡島半島から上川盆地にかけて高温になることなど理解していること。つぎに農作物と気温の関係について、いねを除いて他の三つは冷涼な地帯につくられるものであること。すなわち、作物気候の初歩について指導されていること。——この点は特に時間を設けて作物気候を指導せよというのでなく世界諸地域の地誌をとりあげ、そこの農業について指導する場合、作物の種類にふれるわけであるから、その地域の気候と関連させて取り扱い、それから一般化すればよい。たとえば、ジャガイモは北米、ドイツ、ソ連等、さとうだいこんはドイツ、ポーランド、ソ連、北米等のように——

このほか、北海道の開発が明治初年以後本格化したものであり、屯田兵の制度などもそのあらわれであるが、このような本州から移住した人々は北海道においても本州と同じ農業の仕組に従ったことなど理解するならば、提示された地図をみても、その北進する限界線が米をあらわすものであることは大体推定できるであろう。

解 説

- 1 この問題は、イ、ロとも地名を地図上で指し得るかどうかをみるものである。ついで、この地名にかかわる連合がどのような内容のものかをみたわけであるが、意味内容はここに提示されてあるから、このような意味内容を地名と結びつけて記銘されているかどうかをみるという問題形式になっている。
- 2 この正答率からみると、生徒の困難の一つは地図上で地名を指すという学習指導が不じゅうぶんであるということと、東南アジアの取り扱いが、どこまで掘り下げられているかという学習内容の深淺からくる知識の不足によるものであろう。
- 3 地名を地図上で指すことができるためにはどのような指導がたいせつかということについては、これまでたびたび述べているので、ここでは改めてふれない。

東南アジアの問題は、アメリカ、ソ連、ヨーロッパなどに比べると、その取扱いがややもすると不じゅうぶんになりがちである。われわれ同じアジアの一員として、アジア諸国についての知識が他よりも少ないということはおかしなことであって、指導計画全般について今一度検討する必要がある。

以上、地理的分野を一通り述べてきたが、これらをまとめて、学習指導にあたって全般的に留意しなければならない事項を簡単に述べることにする。

- 地図帳の使用について意を用いること。
- 教科書等に記載されている図表についての取り扱いをゆるがせにしないこと。
- 各単元について指導上重要な事項を選択して徹底的に理解を確実にしていくこと。
- つねに比較考察する態度を養うこと。
- 大地形、地名等の必要最少限は確実に記憶させること。
- 地図化作業によって記憶を確実にさせ、地図化したものについて現象を考える習慣をつけること。
- 時事的な事項の地理的考察も教師はつねに怠らないこと。日常授業の中に適宜おりこんだ授業をすること。

- 郷土における事例は他の地域の理解を具体的にするものであるから、適切なものを適宜取り入れること。
- 全般に記述式のテストに弱いが、これは理解したことが自分の“ことば”でいいかえることのできるくらい確実であれば、記述式であろうと○×式であろうとできるわけである。したがって、理解を確実にするための指導法を一層研究する必要がある。

Ⅱ 歴 史 的 分 野

30年度〔7〕

つぎの文の()の中に、下のうちから正しいと思うものをそれぞれ一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

- イ. 13世紀はじめ、貴族や僧侶などは、ジョン国王の権利をおさえ()を認めさせた。これは後に自由のとりでとよばれた。
 - ロ. トマス・ジェファソンによって起草されたアメリカ合衆国の()は、1776年7月4日に発表された。
 - ハ. ルイ十六世の失政により、1789年()がおこり、国民議会は()を発表した。
 - ニ. 「人民の、人民による、人民のための政治」の実現に努力した()は南北戦争中の1863年に()を発した。
 - ホ. 言論によって、時の明治政府の専権をおさえようとする()運動や国会開設を要求する声が()を中心としてさかんになった。
1. 伊藤博文 2. 板垣退助 3. リンカーン 4. フランクリン
 5. 独立宣言 6. 人権宣言 7. マグナ・カルタ(大憲章)
 8. 自由民権 9. 社会主義 10. 奴隷解放 11. フランス革命
 12. ロシア革命
- (イ—65.0 ロ—84.0 ハ—57.2 ニ—83.1 ホ—69.8)

31年度〔3〕

つぎの文の()の中に、下の のうちから適当なことばを選んで、その番号を書きいれなさい。

民主主義の運動は、イギリスでは13世紀のはじめ、国王に対してa()が要求するという形であられたが、b()では18世紀に国王を含む貴族と僧侶に対してc()が要求するという形で進められた。

- | | | | |
|---------------|-------------|--------|---------|
| 1. 諸侯(領主, 僧侶) | 2. 商工業者(市民) | 3. 農民 | |
| 4. 移民 | 5. アメリカ | 6. ドイツ | 7. フランス |

(387)

解 説

- 1 欧米ならびに日本の民主主義発達史上、重視すべき史的事項に関する理解をみるものである。歴史をどうみるかということは、それにかかわる史実についての正確な知識が土台になるものであるから、ここに示されたような民主主義発達の史実は確実に記憶されなくてはならない。
- 2 設問形式からくる問題の困難さはないから、この内容についての知識を獲得しているかどうかということが、正答率の違いになっているのであろう。この内容で、31年度〔3〕の問題のうち、僧侶がイギリスおよびフランスにおいてはどういう立場にあったのかという点はわかりにくいのではないか。これは、わが国の仏教の僧侶、特に現在の僧侶で考えようすると、この問題はわからない。キリスト教の僧侶が中世、聖俗両方の権力をあわせもっていたことを指摘しなくてはならない。
- 3 以上のような問題のねらいや生徒の困難から、この問題で求めている史実について、次のような理解がたいせつである。

○ マグナ・カルタ

主権の濫用を拘束し、「国王といえども法律に従わねばならぬ」とする原則を確立、英国民権発達の初めである。以後、英国民が国王に反抗するとき、つねにマグナ・カルタの精神をかかげた。マグナ・カルタの英国民主主義発達史上における史的意義、人類の専制者に対する権利を守ることな

などを強調して確実には握させたらよい。

○アメリカの独立宣言

宣言の前半はたいていの教科書に出ているようであるから、これを資料として取り扱うことがたいせつである。これはアメリカ民主主義の根本を明確に表現したものである。

○フランス革命と人権宣言

フランス市民革命の指導理念が何であったか、国民議会とはいかなるものか、また、その果たした役割、議会在憲法制定に先立ち人権宣言を出した理由等「人権宣言」の内容についての指導とともに、それがいかなる歴史的事情の下に発せられたかについての指導も必要である。

○リンカーンと奴隷解放

これはいろいろの機会にふれられるのか正答率も高い。独立宣言の精神の展開が奴隷解放になったことを注目させることもたいせつである。

○自由民権運動と板垣退助

藩閥専制に対する自由民権運動の意義を理解させるとともに、伊藤博文や板垣退助の果たした役割を正しく理解させること。

30年度〔8〕

つぎは奈良、平安、鎌倉、安土桃山、江戸の各時代の文化のどれかに関係したことがらである。それぞれの時代名を()の中に書き、その時代の文化に関係のあるものを、下のうちから二つずつ選んでその番号を()の中に書きいれなさい。

イ、中国との公の交通が絶えて、中国文化の直接の影響から離れた日本風の文化が発達したが、それは貴族の生活を中心としたものであった。

()時代 () ()

ロ、時代の統一者の力をほこるかのような城が築かれるようになり、その内部を装飾する豪華な芸術が発達した。

()時代 () ()

ハ、社会の平和がつづき商業が盛んになり、町人の勢力が勃興するとともに、その好みにあった文化が発達した。

()時代 () ()

ニ、学問がなくともだれでも容易に信仰にはいれる仏教が起こるとともに、厳格な修業により自分で悟りをひらこうとする仏教も中国から伝えられた。

()時代 () ()

ホ. 唐との往来が行われて、わが国の文化は大いに発達した。特に仏教が盛んになったのは、国家がそれによってわざわいを除き、天下泰平をはかろうとしたからであった。

()時代 () ()

1. 狩野永徳
2. 菱川師宣
3. 井原西鶴
4. 親鸞
5. 西本願寺飛雲閣
6. 国分寺
7. 正倉院
8. 寝殿造
9. 東大寺南大門仁王像
10. 東大寺法華堂月光菩薩
11. ふすま絵
12. 浄瑠璃
13. 大鏡
14. 源氏物語
15. 日蓮宗

(イ—332 ロ—334 ハ—46.5 ニ—32.5 ホ—25./)

解 説

- 1 この問題は各時代の文化について、どのような概念をもっているかをみることで、その時代の文化を代表する文化遺産や人物についてどの程度記憶しているかを明らかにしようとしたものである。
- 2 生徒の大半はこのような文化遺産に直接ふれたことはないから、そこからその特色を抽出し各時代の文化の特色をつかむということとはほとんどない。したがって、主として教科書に記述されている各時代文化の特色を記憶することになる。この意味で記銘を強固にする印象が弱いため、このような問題はどうしても正答率が低くなる傾向にあると考えられる。
- 3 このような記銘がたしかなものになるためには、人物や文化をその時代との関連においてつかませることが必要である。また、実物に接することができなくとも、映画、写真などを通して、できるだけ実物に近い状態でふれ、それを他の時代の同じ種類の文化と比較させることによって印象を強めることなど指導に当たって配慮すべきであろう。さらに、絵画、彫刻、建築などは図工科の美術史関係でも指導されるのであるから、討議などによってその特色を話し合ったら理解を深めることもできるのではなかろうか。そして、その時代の代表的なものを知っていれば、このような問題程度のもものは正解できるはずである。

つぎのことがらのうち、大化改新に関連したものはAを、明治維新に関連したものはBを、両方に関連したものはCを()の中書きなさい。

- () 1. この改革には、外国の情勢が大いに影響している。
 () 2. 土地の売買が自由になり、地主が税をおさめた。
 () 3. 成年男子の中から兵士を徴集した。
 () 4. 一般の人は、国から土地を分けあたえられ、国に税をおさめた。
 (2.0)

解 説

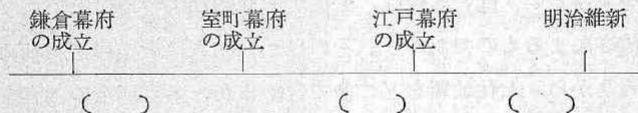
- 1 大化改新も明治維新もどちらもわが国における歴史上の大きな改革である。この二つの改革を比較して、その共通点と相違点をみい出すことは大化改新あるいは明治維新についてより深い理解を得ることになる。この問題のねらいもここにある。
- 2 両者を比較する場合、その表面的な属性で比較するのではなく、本質的なものを同一のカテゴリーで比較することができなくてはならないし、また、いろいろな角度からその改革の特質をとらえることもたいせつである。この点正答率が2%という低い状態は、生徒が表面的な字づらの上で比べるという認識の浅さによるものであろう。そのほか、防人は大宝律令で初めて学習するであろうから、大化改新をどこまで含めるか、大宝律令の内容をどの程度まで深めて学習したかなどという点が生徒の正答率の低い理由と考えられる。
- 3 大化改新も明治維新も政治上の改革としては、豪族あるいは諸侯のもっていた権力を中央政府に集中し、いわゆる官僚機構によって政治を行なおうとしたものである。さらに、対外的には圧倒的な外国勢力に対抗して、わが国の強化をはかったものであり、外来文化の摂取も唐の模倣あるいは欧化の形で大きく影響している。そして、このことは海外に対して国力の充実拡張が軍備の整備拡充の形であらわれた。防人といい、富国強兵といい、軍備を徴兵という形でなされたことも、当時の政治体制においては必然的なものともいえる。

以上のような政治体制を支える経済的基盤は、どちらも土地に依存していることは共通しているが、大化改新では班田制度をとり、明治維新では地租によっており、その点、前者が公地公民の法的強制の形をとり、後者が土地の私有を認め、しかも、地租改正を地主に有利な形にしておき土地の兼併を促進するという相違がある。

以上のことは、この二つの改革を理解するために、もっとも必要な問題であり、しかも、これらの事象はバラバラなものでなく互に関連し、その本質的なものをあらわしているものである。このような歴史事象のは握とその内部構造の認識は、歴史を学ぶ上に忘れてならない基本的な態度であるが、生徒の認識力の発達も、学習内容の正しく組み立てられた習得によってできるものである限り、学習指導にあたり重要なポイントは教材研究にあることを銘記すべきである。

31年度〔4〕

太郎は鎌倉時代以後の簡単な年表を作ろうと思った。下のことがらは、この表のどこに入れたらよいか。表の()の中に、それぞれあてはまるものの番号を一つずつ書きいれなさい。



1. 新潟港などを開く条約がアメリカとの間に結ばれた。
2. 順徳上皇が北条氏のために佐渡に流された。
3. 上杉謙信が活躍した。

(82.5)

解 説

1. この問題は郷土に関係ある史実を日本史の大きな流れ——時代——の中に位置づけてとらえているかどうかをみたものである。
2. 時代区分が大きくて、しかも、同じ時代に二つ入れることのないこの問題はごく大ざっぱにあてはめることができるかということになる。この点82.5

%の正答率からいって、大部分の生徒はこれくらいの記銘はあり困難な問題でない。

- 3 郷土に関連する史実も、郷土史の立場で取り扱うことは中学校の指導ではほとんどないから、日本全体の歴史の中で、郷土が当時どのような歴史の発展の中に位置したのかという指導観点で取り扱えば、この程度のことはできるはずである。なお、1、2、3の各選択肢も、ただこれだけで記銘するのではなく、幕末の日米交渉の経緯、承久の変、戦国時代の戦国大名の抗争と意義などを理解する一環として指導されれば強固な記銘となりうるということに留意すべきである。

31年度〔5〕

つぎのことがらに関係のある中国の王朝を の中から一つずつ選んで、その番号を()の中に書きいれなさい。

()イ。わが国と下関条約を結んだ。

()ロ。榮西や道元が留学した。

1. 唐 2. 宋 3. 元 4. 明 5. 清

(イ—56.4 ロ—38.4)

解 説

- 1 この問題は、わが国の歴史を世界史、特に中国と関係づけてとらえているかどうかをみたものである。このことは、ここにあげた史実が、わが国のどの時代にあったことかという理解と、それに対応する中国の王朝が何であるかという知識をもっているかどうかをみることになる。
- 2 生徒は中国と一般的に表現して、王朝名はさして注意を向けていないのではない。ただ、イは近代史で日清戦争ということが一つのポイントになっているから、清という王朝名を記銘しているが、ロの宋は公の交渉もないことであり、あまり取り扱われないのかも知れない。
- 3 日本史を中心とした世界史という形で指導される中学校の歴史的分野では、中国史だけ通史的に取り扱わないため、王朝名やその順序などがわかり

にくいことは確かである。しかし、指導要領の趣旨からいっても、世界史の大きな流れをつかむことが要求されており、わが国の歴史の上で、もっとも密接な関係にある中国の歴史もその大きな流れはわが国と無関係でないから、日本史を取り扱うことによって、ある程度つかませることができよう。たとえば、わが国の時代区分と中国の王朝を対応させると、宋が979年、元が1271年、清が1636年に創始されたから、唐は聖徳太子から平安時代前半までの遣唐使と結んで、宋は平安後半から鎌倉時代にかけて民間貿易の盛んであったことや宋銭の流入などに関連づけて、元は元寇と、明は室町時代の倭寇と、清は徳川時代および明治と対応させれば、よほど生徒もはっきりつかめるのではないか。

32年度〔5〕

つぎの文の()の中にあてはまるものを、下からそれぞれ一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

世界文明発生地といわれるインダス川、黄河、a()、チグリス川、ユーフラテス川のほりでは、他の地域に比べて早くから金属器が使われ、b()が始められた。

1. 遊牧
2. 農耕
3. 狩猟
4. ライン川
5. ナイル川
6. ミシシッピ川

(84.5)

解 説

- 1 世界史における文明発生についての基礎的な知識をもっているかどうかをみる問題である。特に農耕が始められたということは、文明発生の重要な因子であって、この程度の知識は常識といってよい。
- 2 正答率が84.5%であることは、この程度の知識は中学生には特に困難でないことを示している。
- 3 aのナイル川は文明発生の地にふればエジプトと関連して必ず出てくるものであり、事実の記銘にすぎないが、bの農耕は、これによって人々は定住し、余剰の生産が保証され、労力と時間に余裕を生じ、支配と被支配との

関係のあらわれである国家の発生をみたものであるから、このような農耕と文明の関係について理解させることがたいせつである。また、このような理解の形で記銘されておれば、この問題などは容易に解くことができるわけである。

32年度〔9〕

つぎのイ、ロにそれぞれ関係のあることがらを、下のA、Bの中から一つずつ選んで、その番号と符号を書きなさい。

イ。「仏教を信じ、念仏をとなえれば誰でもすくわれる」というような、わかりやすい仏教がひろまった。() ()

ロ。「仏のおかげをうけて国を安らかにしたい」という考えから、天皇が仏教をひろめられた。() ()

〔A〕1. 政治の実権が貴族から武家に移った時代。2. 武家政治が終り近代国家の建設がめざされた時代。3. 律令が制定され国家が栄えた時代。

〔B〕a. 東大寺 b. 浄土宗 c. キリスト教禁止の撤廃
(イ—60.7 ロ—59.9)

解 説

- 1 文化の代表的なものとして仏教をとりあげ、それを生んだ時代を問うもの。仏教について、ただ盛んとなったというだけでなく、それが時代のいかなるものの要望に応じたものかといった点についても考えさせる必要がある。そうしたことにより、国家的仏教とか、貴族的仏教とか、民衆的仏教としての性格も理解される。この問題はそういう理解があるかどうかをみたものである。
- 2 正答率はどちらも60%前後であるから、だいたいの生徒は理解していると考えられる。ただ、できなかった生徒について考えてみると、Aの選択肢が時代を奈良時代とか鎌倉時代といった呼称を使わずに、政治的な面からみた特徴をもって時代をあらわしているのも、このことと仏教の関係についてどのような関係があるのかという理解がないと、どれを選んでよいか困難を感じるであろう。

- 3 以上のような生徒の困難が生ずるのは、ふだんの学習で、いろいろな史実をバラバラに取り扱い、その間の関係や関連について触れるところが少ないと、表面の字づらの異同から判断するという、理解されていない状態になってしまうのである。前にも述べたが、仏教だけに限らず、史実の解釈は、その時代的背景のなかでなされなければ不じゅうぶんであって、このことは歴史を学ぶ基本的な態度につながるものでもある。

33年度〔4〕

つぎの文の〔 〕の中から、正しいと思うものをそれぞれ一つ選んで、その番号を

○でかこみなさい。

イ. 藩閥政府に反対する自由民権運動がたかまったので、1881年、政府は10年後

- | | | | | | |
|---|----------------------|-------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|
| に | 〔 1. 国会の開設
すうあつ 〕 | } を国民に約束した。そして、翌年 | 〔 4. 木戸孝允
きと にかやし 〕 | | |
| | | | | 〔 2. 枢密院の設置
すうみつゐん 〕 | 〔 5. 大隈重信
おおくま しげのぶ 〕 |
| | | | | | |

らをヨーロッパに派遣して、諸外国の憲法を調査させた。かれらの帰国後

- | | | |
|---------------------|---------------------------|-------------------|
| 〔 7. イギリス
いぎりす 〕 | } の憲法を手本にして、憲法の案をつくりはじめた。 | |
| | | 〔 8. ドイツ
どいつ 〕 |
| | | |

ロ. 日本とロシアとの間に、最初の通商条約が結ばれたのは

- | | | |
|--------------------------|----------------------------|------------------------------|
| 〔 1. 江戸幕府の中ころ
えどまくふ 〕 | } であった。また、日本とロシアの間の大きな問題であ | |
| | | 〔 2. 江戸幕府の末ころ
えどまくふのすゝま 〕 |
| | | |

った千島・樺太の国境問題は、外交交渉によって1875年

- | | | |
|---|-----------------|---|
| 〔 4. 千島・樺太を日本の領土
ちしま・はらたをにっぽんのりやうと 〕 | } として解決された。しかし、 | |
| | | 〔 5. 千島・樺太をロシアの領土
ちしま・はらたをろしあのりやうと 〕 |
| | | |

- | | | | |
|-------|-------------------------------|---------------------|-----------------------------|
| 1904年 | 〔 7. 満州・朝鮮問題
まんしゅう・ちやうせん 〕 | } を原因として、日露戦争がおこった。 | |
| | | | 〔 8. 北洋漁業問題
ほくやうりやうぎやう 〕 |
| | | | |

ハ. 「人権に関する世界宣言」は

〔 1. 国際連盟 こくさいれんめい 〕	} によって、	
		〔 2. 国際連合 こくさいれんごう 〕

- | | | |
|-------------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 〔 4. 第一次世男大戦前
だいいちたいせいなんたいせんぜん 〕 | } に出されたものである。フランスの「人権宣言」では | |
| | | 〔 5. 第一次世界大戦後
だいいちたいせかいたいせんご 〕 |
| | | |

{ 1. 自由権 }
 { 2. 生存権 } が主としてなえられたが、「人権に関する世界宣言」には、さ
 らに、 { 9. 自由権 }
 { 10. 生存権 } についても述べられている。
 (イ-52.9 ロ-21.5 ハ-45.8)

解 説

- 1 この問題は、正確な知識が強固に記録されているかどうかをみたものである。イの明治憲法制定の経緯については自由民権運動との関連、当時の政府首脳部の考え方とそれに近いドイツ（プロシヤ）憲法を手本としたいきさつなどを理解しているかをみたものであり、ロは日ソ交渉が鳩山内閣によって進められていた時なので、わが国とロシアの交渉についての歴史的な展望についての知識をみるものであり、ハは人権思想の発達について、フランスの「人権宣言」から「世界宣言」へと発展したことによどのような考え方の違いがあるかという知識をみたものである。
- 2 知識の記録を再生できるかどうかという場合、それがじゅうぶんできなかったり、全然できないというときに、その理由として二つの場合が考えられる。一つは、その知識に接したことがあっても、一時的な結合が強固でないため、忘れてしまうことであり、いま一つは、その知識に全く接したことがないという場合である。学力検査の正答率が低いということはこの両者のいずれかが原因であろう。ロの21.5%は、その低い理由を後者に求めることができるのではないか。
- 3 ある知識にどれだけの範囲、あるいは、どれだけ掘り下げて与えたらよいかということとは、教育課程の問題に属し、その端的な表示は教科書の内容、記述の程度であろう。ここに提示された三つの問題は、どれもが教科書に直接に触れられているものであるから、指導に当たっては重点的ということを経極端に解釈して、最少限必要な知識さえもふれさせないということのないようにしなければならない。

記録の強固を保障するものは、連合の多様性がまずあげられるが、これは

理解という思考過程で多様性が脈絡をもつてくみとられなくてはならない。たとえば、ロの幕末における日露の交渉は、通商条約の締結を日米のそれを中心にして指導しても、そのことは当時の世界情勢の一環としてあらわれたものであり、そこにロシアの南下あるいは東進の意味もある。したがって、日米、日露の交渉をバラバラな孤立したもののように指導するのではなく、大きな世界史の流れの中に位置づけて取り扱うことがたいせつである。

33年度〔5〕

つぎのイ、ロの間に対する1. から5. までの答のうちで正しいと思うものには○を、誤っていると思うものには×を()の中書きなさい。

イ. 鎖国前に渡来したヨーロッパ人によってわが国はどんな影響をうけたか。

- () 1. 太陽暦を使用した。
- () 2. 蘭学によって医学が進歩した。
- () 3. 戦法や築城法が変化した。
- () 4. 水墨画が発達した。
- () 5. キリスト教を信仰するものが多かった。

ロ. 鎖国によって、わが国はどのような影響をうけたか。

- () 1. 海外事情がまったくわからなくなった。
- () 2. 国民の海外発展の気運がくじけた。
- () 3. 封建制度の維持につとむがよくなった。
- () 4. 雄大で豪華な桃山文化がうまれた。
- () 5. 自然科学の発達がおくれた。

(イ-23.3 ロ-/2.8)

解 説

- 1 鎖国というわが国の歴史の上で画期的なできごとは、その後の政治、経済文化に大きな影響を与え、それは現在にまでもおよんでいる。このような重大な意義をもつ鎖国について、ただ、鎖国がなされたという事実のみ記憶しているというのでは、じゅうぶんな学習といえない。この意味で鎖国前のヨーロッパの影響と鎖国によって生じた事態について、どれだけ理解しているかをみたのが、この問題である。
- 2 もともと、ある歴史的な事件による影響というような複雑な歴史現象を簡

単な文であらわすことは容易でない。正しく述べようとすればするほど千万言を要することになる。しかし、われわれが児童生徒に指導するとき、こうしたことを考えた上で、なおかつ、簡明に表現することがたいせつである。この問題でも、ロの1「海外事情がまったくわからなくなった」という表現の中で「まったく」というところが問題である。生徒はこのところにつまずいたのではなかろうか。

なお、その他、影響という場合、直接的なもの——これは原因、結果の関係ともいえるが——と間接的なものがあり、後者の方は生徒はわかりにくい。たとえば、イの3で戦法や築城法が変化したというのは正しいのであるが、この場合、設問の前提が「鎖国前に渡来したヨーロッパ人によって」であって、鉄砲の伝来は一言も述べられていない。このようなことが、イもロも正答率の低い理由であろう。

- 3 歴史現象を簡明に表現することで参考になるのは、教科書の記述であろう。この意味でも、教科書の簡明な表現の内容をよく考えて指導することがたいせつである。

この問題のように、提示された史実と関連や関係があるかということを開く場合、その選択肢が正しいか誤っているかを判断する時、重要な観点の一つは、時間的に前であるか後であるかということであり、さらに、両者の時間的なへだたりが大きいかどうかということである。たとえば、この問題でイの4や、ロの4などは、提示された史実の前にあらわれた歴史的現象である。このように考えてくると、歴史において年代というものと結びつけて史実をみることが、いかにたいせつであり、基本的な歴史を学ぶ能力態度であるということがわかる。このことは、さらに、ふだんの学習で個々の史実を覚えさせることにのみ気を取られ、大きな歴史の流れの中に位置づけることを忘れてはならないということにも通ずるものである。以上のことは、歴史を指導するもっとも基本的な留意点といえる。

つぎの文と関係のある場所を下の地図から選んでその符号を、また——線の部分の名称を解答欄に書きなさい。



1. 江戸幕府はアメリカ合衆国の強い要求に屈して、この港を開くことを約束した。
2. 蒙古の大軍が二回にわたって、この地に攻めよせて来た。
3. 空海（弘法大師）は、この寺を建て真言宗をひろめた。
4. この建物は藤原三代の強大な力と当時の文化をよく示している。

解答欄	文の番号	地図の符号	名称
	1		
	2		
	3		
	4		

(1, 2—22.7 3, 4—13.4)

解説

- 1 史上の重要な地名等を地図上に正しく指摘できるかどうか、地名や史蹟を正確に記すことができるかどうかをみる問題である。
- 2 この問題の正答率が22.7%と13.4%で低いのは、どこにその原因があるのか相当考えてみる必要がある。誤答例がないので正確なことはいえないが、一つは歴史上の地名や史蹟の位置を地図の上ではっきりさせるといことが少なかったのではないかということと、いま一つは歴史上の地名やその他の名称が正確に記銘されるよう指導されなかったのではないかということである。
- 3 地名を地図の上で示しうるといことは、地理的分野の指導と同様に歴史地図においてもいえることである。たとえば、この問題で要求している地名

と名称は、採点基準表によると、1 神奈川（横浜と書いたものも許容する）2 博多（福岡と書いたものも許容する）3 金剛峯寺 4 中尊寺金色堂（中尊寺または金色堂の一方でもよい）名称の漢字のちがいについては採点者の判断にまかせる。とある。そこで、神奈川は江戸に近いということが意味のあることであるし、博多は九州の北端に位置し、朝鮮および中国に対して表玄関ともいうべき所であり、かつ太宰府に近いことに意味があり、金剛峯寺は比叡山と並んで平安初期の山岳仏教として、しかも、京都に近いところに意味がある。また、平泉は京都より遠く離れた奥州にあって、当時は辺地とされているこの地に京文化の花が開いたことに意味がある。以上のような距離的な遠近は、史実を解釈するとき重要な条件になるものであり、これは地図を使用することによって直観的には握されるものである。

以上のことと直接には関連しないが、氏名、地名、その他の名称の表記の問題が中学校の学習指導にあたって大きな関心になる。この点について、先に記した採点基準の内容からも判断できるように、ある程度の幅をもって許容している。この問題の中でも金剛峯寺の峯は当用漢字表の中に入らないものである。そうかといって、峰と書いてもよいかは問題である。歴史上の名称はむずかしい読み方、漢字が続出するが、中学生程度ではそれを正確におぼえさせることは困難であり、また、無理に覚えさせることになれば、学習の効果を低くするので、教師の板書では原語で書きふりがなをつけるようにしたらどうか、そうすることによつて正しい読み方を知り表記も「ひらがな」で書くことを許してよいと思う。もちろん、正しく漢字で書くことがだんだんできるようになることを考えての話であるが。

下の年表の()の中には、日本の国内の動きを、()の中には、世界のできごとを、それぞれ下の□の中から選んでその番号を書きいれなさい。

西 暦	1850			1900				1950
日 本	ペリ ー が 浦 賀 に 来 た		明 治 維 新	第 一 回 帝 国 議 会 開 会	日 英 同 盟		普 通 選 挙 法 成 立	平 和 条 約 を 結 ぶ 日 本 国 憲 法 公 布
国内 の 動 き		()		()	()		()	()
世 界		南 北 戦 争		北 清 事 変	()		国 際 連 盟 成 立	国 際 連 合 成 立

- 日本の国内の動き
1. 自由民権運動がさかんになった。
 2. 議院政治が危うくなった。
 3. 封建社会がいよいよゆきづまった。
 4. 婦人が参政権を得て、地位が向上した。
 5. ロシアとの対立がはげしくなった。

- 世界のできごと
6. アジア・アフリカ会議が開かれた。
 7. 中華民国ができた。
 8. ニューディール政策が行われた。
 9. リンカーンが奴隷を解放した。

(日本-424 世界-52.8)

解 説

- 1 この問題は、日本および世界における民主化および民族運動の発展について、その推移をあらわす史実を正しく年代的に位置づけてとらえているかを見るものである。
- 2 このような年表の中にいろいろな史実を記入する問題で、それができない生徒の大半は、一つ一つの史実と年代を機械的に結びつけて暗記しているものである。もちろん、史実についての知識を全然もっていない生徒は何もで

きないわけではあるが、このようなつまづきをみせる生徒は歴史についての基本的な考え方のできていない生徒である。

- 3 年表に史実をあてはめて学習する場合、年代と史実を直接結びつけて覚えるとか、年代をそれに関連する史実の内容を示めすように読みかえて覚えるなどの方法をとることが多い。しかし、これはややもすると機械的な暗記になってしまい、その記憶がなかなか強固なものとなることができない。けっきょく記憶が強固なものになるためには、それが意味的な記銘でなくてはならない。すなわち、理解という形で記銘されることである。このような記銘は再生が容易であり、また、正確でもある。

つぎに、歴史的な現象は時間的に先行するものをうけておこるとい根本的な考え方を明確にすることがたいせつである。たとえば

封建社会がゆきづまる→明治維新

自由民権運動がさかん→帝国議会の開設

満州事変→軍部勢力の^{だい}抬頭→議会政治が危くなる

などのように、時間的な前後の関係をはっきりつかむことである。

したがって、歴史上のできごとがいつ頃あったかということも、その前後のできごととの関係や関連において記銘されることがよいのである。その意味で、この問題をみると、この年表にすではいつているいろいろな事件がある。この事件と記入を要求していることがらの関係を考えて時間的な前後や、へだたりを考慮して記入すればよいわけである。

以上のような考え方ができるためには、ふだんの指導で、いろいろな史実をばらばらに取りあげず、他の史実との関連や関係を考えたり、大きな歴史の流れの中に位置づけて考えたりするような指導がなされることがたいせつである。

以上、歴史的分野について一通り述べてきたが、これらをまとめて、学習指導にあたって全般的に留意しなければならない事項を簡単に述べてみる。

- 歴史地図を常に用い、関係位置を地図化してもっているようにすること。
- 一つ一つの史実をばらばらに記憶するのではなく、その関係、関連をつかむようにいつも配慮すること。
- 歴史は時間的な連続として、前後の関係が重要なポイントになる。このことは、いわば因果関係の前提でもある。この意味で年表を読んだり、作成させることがきわめてたいせつになる。
- 正確な知識、厳密な知識の獲得にじゅうぶん配慮すること。“ことば”であらわす場合、その“ことば”があらわす事態と密着したものであることがたいせつである。たとえば「鎖国により外国の事情がまったくわからなくなった」という表現は「まったく」というところに問題がある。したがって、教師の用いる“ことば”もこのような点を厳密に考えて発言する必要がある。
- 歴史上のいろいろな史実は、その現象面と本質面を判別できるようにならなくてはならない。比較考察ということは歴史の学習でもたいせつな能力であるが、単に表面的な現象面で比較するだけでは本質をとらえることはできない。
- 史実と解釈を混同しないこと。
- 史料、資料の活用をはかること、これは史実と解釈を混同することを防ぐ意味だけでなく、史料、資料から考えるという、歴史的思考力を育てるためにもたいせつであるから。
- 歴史はあくまでも考えるものであって、暗記物でないということを教師は基本的な態度として堅持すること。

Ⅲ 政治, 経済, 社会的分野

30年度〔2〕

右の点図「都道府県別にみた出生と死亡」をみて、つぎの文の()の中に、それぞれもっとも適当と思うことばを書きなさい。

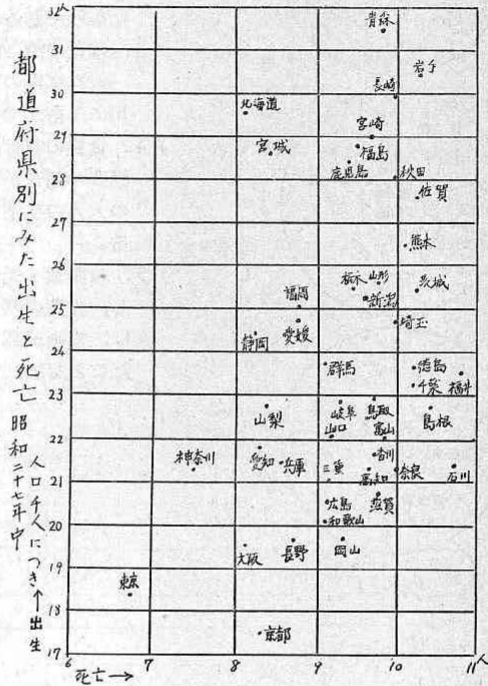
死亡率がもっとも低いところはa()

出生率ももっとも低いところはb()

である。また、新潟県は石川県にくらべると、出生率はc()

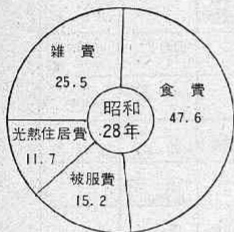
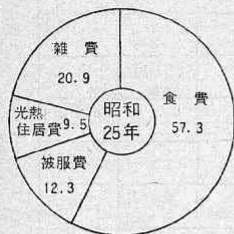
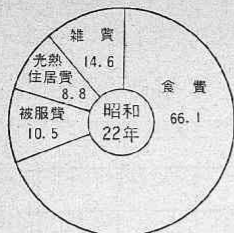
死亡率はd()

(72.2)



30年度〔3〕

下の図は、日本の都市における人人の消費生活が、どのように変わってきたかを示したものである。A君の組では、この図からつぎのようにいろいろな意見が出た。正しいと思うものに○を、そうでないものに×をそれぞれ()の中に書きなさい。



(69.2)

- () 1. 昭和22年の食費の割合が、他の年に比べて多いのは、都市の人人が食生活に追われ、ゆとりがなかったことを示している。
- () 2. 食費の割合がしだいに少なくなってきたのは、都市の人人の生活が苦しくなってきたからである。
- () 3. 雑費の割合がしだいに増してきたので、一般に都市の人人は教養・娯楽につかう費用に余裕ができたといえよう。
- () 4. 食費の割合がだんだん少なくなり、他の経費の割合が増加してきているのは、都市の人人の生活にゆとりができたためである。
- () 5. 被服費・光熱住居費・雑費の割合が増加し、食費の割合がだんだん減少しているのは、物価が高くなり、生活程度が低くなったことを示している。

31年度 [10]

右(下)の表を見て、つぎの問に答えなさい。

イ. 輸入の割合が戦前戦後を通じて、最も大きいものは何か。また、それを輸入する目的を書きなさい。(品名の欄の「その他」は除く)

- a. 品名 _____
- b. 目的 _____

ロ. 輸出の割合が戦前にくらべて戦後 $\frac{1}{2}$ 程度に減少したものは何と何か。また、その理由を書きなさい。

- a. 品名 1 _____ 2 _____
- b. 理由 _____

輸 出 (%)			輸 入 (%)		
品 名	1934~ 36年	1953年	品 名	1934~ 36年	1953年
綿 糸	1.2	1.2	米	10.6	8.9
綿 布	16.5	14.0	小 麦	1.2	5.8
生 糸	11.1	3.4	砂 糖	4.7	5.0
絹 織 物	2.3	0.7	綿 花	23.6	16.5
人 絹 糸	0.8	1.8	羊 毛	5.9	7.4
人 絹 織 物	4.1	5.7	麻 類	0.8	1.0
毛織物その他	16.1	9.4	化学品・肥料等	6.6	4.7
金属及びその他	8.2	14.6	鉄 鉱	1.1	2.6
機 械	7.1	14.8	石 炭	1.7	3.7
食 糧	9.5	10.3	石 油	3.2	7.2
窯 業 品	3.0	4.4	生 ゴ ム	1.9	1.9
化 学 品	4.3	4.9	機 械	4.7	6.7
そ の 他	15.8	14.8	そ の 他	34.0	28.6
(合 計)	100	100	合 計	100	100

(イ-502 ロ-46.5)

32年度〔3〕

下の図表は、わが国の戦前と戦後における自小作別農家戸数の割合を示したものである。これを見て、つぎの間に答えなさい。

イ. 戦前に比べて、戦後はどんなところが、もっとも変わったか。つぎに書きなさい。

答

	地自作・自作	自小作	小自作	小作
戦 前 (1938年)	29.8%	20.9%	23.4%	25.9%
戦 後 (1950年)	62.4%	25.9%	4.4%	6.7%

6.7 5.0

- (注) ・地自作・自作とは、耕地を小作に出している農家および自分の土地を耕している農家をいう。
 ・自小作とは自作がおもで、一部小作している農家をいう。
 ・小自作とは小作がおもで、一部自分の土地を耕している農家をいう。

ロ. そのように急に変わったのはどのような政策が行われたためか。つぎに書きなさい。

答 _____

(イ-79.5 ロ-67.6)

32年度〔6〕

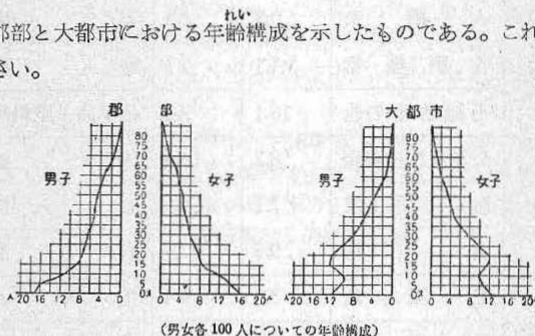
下の図表は、わが国の郡部と大都市における年齢構成を示したものである。これらを見てつぎの間に答えなさい。

イ. 郡部と大都市における年齢構成の最もちがうところを一つ書きなさい。

答 _____

ロ. どのようにして、そのちがいが生じたと考えられるか。つぎに書きなさい。

答 _____



33年度〔6〕

右(下)の三つの表をみて、つぎの間に答えなさい。

イ. 石炭の消費量の増加率がもっとも大きい事業はどれか。また、その増加したおもな理由と思われることを書きなさい。

答 a 事業名 _____

b 理由 _____

ロ. 石炭消費量が減少した事業はどれか。また、その減少したおもな理由とおもわれるものを書きなさい。

答 a 事業名 _____

b 理由 _____

第1表 わが国の石炭消費量

事業	電力	国鉄	鉄鋼	化学工業	その他	計
昭和24	2,975	6,215	4,859	3,217	17,839	35,125
27	6,069	5,034	7,049	3,659	24,592	46,403
31	7,459	4,177	8,064	4,331	28,572	52,603

(単位 1,000トン)

第2表 わが国の発電力

	水力	火力	計
昭和24	6,481	3,975	10,456
27	6,938	4,165	11,148
31	9,602	5,849	15,451

第3表 国鉄在籍車輛数

	蒸気機関車	電気機関車	電車
昭和24	5,334	358	2,482
27	5,069	399	2,710
31	4,804	583	3,256

(イ-41.2 ロ-72.8)

34年度〔8〕

わが国の貿易について、つぎの間に答えなさい。

イ. 右の図表をみて、つぎの文の()の中にもっとも適当と思う品目や数字を書きいれなさい。

1. わが国の貿易のいちじるしい特色は()を輸入して()を輸出していることである。

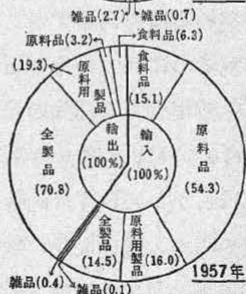
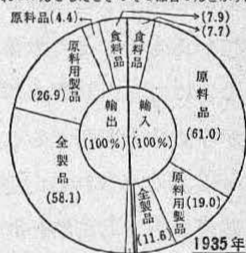
2. 1935年度においては、()の輸入は輸入総額の()%であったが、戦後台湾や朝鮮からの移入がなくなり、また人口も増加したので、1957年においては()%になっている。

ロ. 輸出入品について、つぎの間に答えなさい。

1. 食料品は輸入しているとともに、輸出もしているが、輸出している食料品を下の□の中から二つ選んで、その番号を○でかこみなさい。

輸出入状況

()の中の数字は輸出、輸入の総額をそれぞれ100%としたときのその品目の%を示す。



第1表 わが国の石炭消費量

事業	電力	国鉄	鉄鋼	化学工業	その他	計
昭和24	2,925	6,215	4,859	3,217	17,839	35,125
27	6,069	5,034	7,049	3,659	24,592	46,403
31	7,459	4,177	8,064	4,331	28,572	52,603

(単位 1,000トン)

第2表 わが国の発電力

	水力	火力	計
昭和24	6,481	3,975	10,456
27	6,938	4,165	11,148
31	9,602	5,849	15,451

第3表 国鉄在籍車輛数

	蒸気機関車	電気機関車	電車
昭和24	5,334	358	2,482
27	5,069	399	2,710
31	4,804	583	3,256

(イ-47.2 ロ-72.8)

34年度〔8〕

わが国の貿易について、つぎの間に答えなさい。

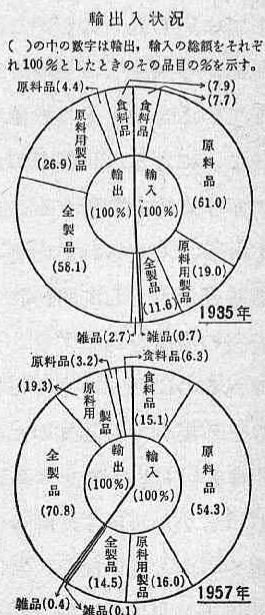
イ. 右の図表をみて、つぎの文の()の中にもっとも適当と思う品目や数字を書きいれなさい。

1. わが国の貿易のいちじるしい特色は()を輸入して()を輸出していることである。

2. 1935年度においては、()の輸入は輸入総額の()%であったが、戦後台湾や朝鮮からの移入がなくなり、また人口も増加したので、1957年においては()%になっている。

ロ. 輸出入品について、つぎの間に答えなさい。

1. 食料品は輸入しているとともに、輸出もしているが、輸出している食料品を下の□の中から二つ選んで、その番号を○でかこみなさい。



- | | | | |
|-----------|------|-------|------|
| 1 米 | 2 食塩 | 3 魚介類 | 4 小麦 |
| 5 野菜果物の缶詰 | 6 大豆 | | |

2. つぎのものは、おもにどこの国から輸入しているか。それぞれ の中からあてはまる国を一つずつ選んで、その番号を()の中書きなさい。

生ゴム() 羊毛()
砂糖() 原油() 綿花()

イ. 1—95.1 イ. 2—67.3 ロ. 1—69.5 ロ. 2—60.4

- | | |
|-----------|-------|
| 1 アメリカ合衆国 | |
| 2 マラヤ連邦 | 3 カナダ |
| 4 オーストラリア | |
| 5 サウジアラビア | |
| 6 キューパ | 7 チリ |

解 説

以上の問題は、すべてグラフ、数表に関する問題なので、一括して解説することにする。

政治、経済、社会の分野では、グラフや数表をとりあげた問題が、他の二つの分野に比べて多い。そして、これらの問題は全般に正答率が高いのである。このことから、本県の社会科における統計教育はかなり効果をあげていると判断してよいと思う。しかし、これらの問題をくわしく検討してみると、グラフや数表から関連した数値を読みとるという能力は高いけれども、その数値の意味しているもの、その数値が代表している背後の事情を解釈したり考察したりすることになると正答率がさがるのである。このことは、数値を読むこと、数値の示す意味を判断することは、いわば、数学の領域であるし、ここでの指導もじゅうぶんなされていると考えられるから、このような能力が社会科を学習する基礎学力として^{つちか}培われているとしてよい。それに対して、数値の意味やその背後の事情を考察することは、当然、社会科が受けもたなければならない領域であるのに、この方の正答率が低いのはなぜであろうか。もちろん、数値を読みとる場合でも認知のための意味づけができなくては、求めている数値を取り出すわけにいかないから、この両者はやはり緊密な関係にはあるのである。それにもかかわらず、両者の正答率に違いの生ずるのは、一つは出題形式で、解釈や考察と関係なく、数値だけ読めばよいというものがあるからかも知れない。以下、具体的に各問題について考察することにする。

30年度〔2〕

この問題は、出題形式からいえば、数学の問題といってよい。グラフの中から、問題で指定した数値を読みとればよいのであるから。もし困難を感じたとすれば、それは、このような関係図に余りふれたことがないか、グラフの内容が全国44の都道府県を一つの表の中に含ませたので、見ただけでむずかしいと考えたのではないか。なお、このような座票であらわすものとして、数学の方程式のグラフでじゅうぶん取り扱われているので、数学の学習でよく理解しておればできるわけである。この場合でも、その理解が方程式のグラフは数学でのみ使用するグラフというように考えて一般化されてないことである。すなわち、特殊を特殊としてとらえているようでは問題の解決は困難である。学習が進むということの基本的な原則の一つは、特殊から一般へというみちすじをたどることであって、このような生徒の能力をたかめることがたいせつである。

30年度〔3〕

この問題は、グラフを別に掲げているが、それを読みとることは文章化して示しているから、別に数値を読みとることができるかどうかをみる問題ではない。そうすると、けっきょく、この問題はエンゲルの法則、あるいはエンゲル係数についての理解があるかどうかをみる問題であるということになる。さてエンゲルの法則は都市に生活するものの生活水準を判定するためにもちいられるものであり、これは全支出に対する食費の割合をみるものであるが、なぜ食費の割合でみるのかということが、この法則を理解するたいせつな観点になる。このことは生徒の既存の経験でも容易に判断のつくことである。それは、「なにはさておき食べることが生きるための最低の保障である」ということに気づけばよい。そうすれば、人間が一日の生命を維持する食物の量や質は金持ちでも貧乏人でもそう変るものでなく、したがって、食物の質的な相違はもちろん関係するものの、食費を基準におくことは、食費が指標として共通性の高いものであるということによって理解することができるわけである。

このような理解をもてば、食費の割合が段々少なくなるということは、他の消費財に多くの支出をはかることができることを意味し、そのことはまた収入

の多いことを意味する。以上のような理解を生徒が既有的知識や過去経験で考へることは、決して無理な要求ではないはずである。

31年度〔10〕

この問題は、数表から、問題で要求している数値を読みとることと、その解釈を問うものであり、正答率は50%前後である。これは、数値を読むことは設問の中に読む観点が明瞭に示さたてているのであるから、綿花の23.6%が1934年～1936年代に最大の数値であることくらい小学校の五年生でもできるはずであり、他の数値を読むことも同様である。そうすると、この問題の正答率が50%前後であるということは解釈を問うところに困難があると判断してよい。輸入で綿花が戦前戦後を通じてもっとも多いということは、わが国が工業の原料を外国から大部分輸入しており、特に衣料の原料として重要な綿花は、現在わが国では産出されず外国から全部輸入していること。そして、それは加工されて国内の消費に向けられるだけでなく、輸出品としても重要な地位を占めていること。さらにイギリスなどに比べて100年も遅れたわが国の工業は、まず紡織工業の発達から始まり、戦後の工業再建もこの工業から着手されたことがわかれば解答できるはずである。

ロの輸出で生糸がろに減じた理由は、戦前わが国の貿易で生糸がもっとも重要な輸出品であり、しかもそれが大半、アメリカに向けられたこと。そして、その大部分が婦人の靴下に加工されたこと。これに対してナイロンがアメリカで発明され、途中戦争のあったことなどの事情から、戦後はほとんど靴下はナイロンに取ってかわられたということが理解されていれば解答できるはずである。

この問題も、以上のような理解をもった生徒には、数表を順次計算するようなことをしなくても、品目で見当がつくわけであるから、問題の処理も速くできるはずである。

貿易の問題は相手のあることであり、相手の状況の変化によって、わが国の貿易、ひいては、国内産業の状況も変化することなど、当然、指導されていなくてはならない。

32年度〔3〕

この問題は、戦前と戦後の耕地の所有者と耕作者の関係がどう変化したかということ、農地改革のおこなわれたことと、その意義について理解しているかどうかをみるものである。イについては、もっとも大きく変化したのは何かをきいているのであるが、これは数値の大小からその変化を判断するものであり、いわば数値を読みとることができるかをみる問題である。これに対してロは、その大きく変化したのはどのような政策がおこなわれたかを問うているものであって、これは歴史的な内容でもあり、かつ、現在のわが国農業の特色にも関するものである。特に歴史的には第二次大戦の結果、連合国側がわが国の民主化をはかり、その重要な政策の一環として農地改革がなされたものである。これは当然学習内容として取りあげられなければならない。しかも、自作農が大きく増加したというのは政策実施の直接的な結果であるから、この問題は政策の内容を具体的に知っているかどうかを問う問題であるといえる。つまり、農地改革という“ことば”を知っているだけでなく、その内容とそれによっておこった実際の状態も具体的によく理解していることがたいせつなのである。

32年度〔6〕

この問題は、大都市と郡部の年齢構成の相違を構成図で示し、その相違を数値で読みとるというよりも、構成図の形状の相違で認知し、その理由は何かを問うているものである。ところでこの形状の相違を認知することはそう困難なことではないから、その理由は何かということにむしろこの問題の困難さがある。

この理由を述べることができるためには、大都市と「いなか」とがもつそれぞれの機能の相違を根底から理解していなくてはならない。たとえば、都市の職業別人口や産業構造、近代都市発達の原因とその歴史的背景など。これと同時に、人口の増加には自然増と社会増のあることも知っていなければならない。これは都市の特色を理解するばあい当然でてくる学習内容であるが、さらに、この自然増と社会増についての基本的な理解として一般的には、ある地域

のある年令の人口の推移は1才の時にもっとも多く、年令の多くなるにつれて減少していくものであること。したがって、大都市である年度の年令構成で18才頃から人口が増加している状態を示しているばあい、その年令層は出生時にもっと多い人数であったのに対し、17才以下は出生時の人口が18才のそれらに比べてきわめて少なかったということなのか、そうでないとすれば、他地域から流入してくる人口が18才頃から急激に増加するからである。前者の増え、自然増は一般に大都市より郡部に多いとされているのに、郡部にも同じ現象がないのであるから、当然、ここに提示された年令構成図の大都市は18才頃より他地域からの流入が急激に増加したこと、すなわち、社会増によるものであることを意味する。このことはなぜ18才頃の人口が都市に急激に流入するかを都市の機能と結びつけて説明することができなくてはならない。

以上のような思考の過程をたどることのできる生徒は、このような年令構成図をみたことがないとか、特別に教師の指導を受けるということがなくても正答できると思う。

33年度〔6〕

この問題は石炭の消費量の増減について問うたものである。これは三つの数表を関係づけることができれば、提示された資料のみでも容易に解決できるはずである。ところが、正答率はイが41.2%、ロが72.8%で、特にイがこのように低いのはどうしたことによるのだろうか。これまでの数表、グラフについての問題は、提示された資料だけでなく、既知の知識があるかどうか、それを利用できるかどうかで問題ができない場合もあり、それだけ困難であったのに、この問題のように提示された資料を操作することによって解決できる問題の正答率が予期されたよりも低いのはなぜであろうか。結論的にいえば、この三つの数表をどの角度で関連づけたらよいかという点がみだせなかったからであろう。しかし、これは問題をよく読めばわかることである。たとえば、イは、「石炭消費量の増加率をもっとも大きい事業はどれか」というのであるが、昭和24年、27年、31年を比べてみて、各事業中電力の増加率が一番高いことは、概数でも見当がつく。この場合、増加率という“ことば”がわからないとすれば、

これは、数学の領域に属することで、その理由は、第2表をみれば火力発電の増加ですぐ理由を書くことができる。このようにみれば別に困難ではないが、生徒のつまずきは案外のところにあるのかも知れない。誤答例がないためこれ以上のことは、この際ふれずにおくが、現在の火力発電が石炭を燃料にして蒸気タービンで発電することさえ知らないのかもわからない。

34年度〔8〕

この問題のイは円グラフを読んで判断する問題である。イの1は輸出入の品目も個々の具体的なものでなく、製品とか原料という“ことば”で表現して、その割合を%で示しているので、輸入では原料品が、輸出では製品が大きな割合を占め、これがわが国の貿易の特色であるということは容易に判断できる。正答率の95.1%がこの容易さを物語っている。

これに対してイの2は「戦後、台湾や朝鮮から移入がなくなり、また人口も増加したので」という解釈が述べてあり、その解釈にあてはまる品目と、その品目の示す数値をみい出せばよいのである。ところが、この正答率は67.3%でイより低くなっている。これは、この解釈と該当する品目を結びつけることに困難を感じたためであろう。

ところで、この解釈で述べられていることは「戦後のわが国」という概念の中に当然含まれている意味内容であって、領土を失なったこと、人口が海外からの帰還などで増加したことなど、小学生でも知っていることである。ところが、この正答率からいうと、このことと食料を関係づけてとらえられない者が30%ぐらいいることになる。食料を自給できないことも、わが国の大きな問題であり人口と国土の面積(耕地面積)との割合に気がつけば解ける問題である。

こうなると問題の所在は、人口とか、食料とか、国土の面積とかいうことが単なる“ことば”としてとらえられており、実感としてないこと。また理解のともなわない“ことば”で考えるばあいの思考の欠陥を示すものだといえよう。

30年度〔9〕

日本憲法で保障されている基本的人権には、自由権、請求権（受益権）、参政権などに関するものがある。つぎのことがらは、どれに関係があるか、それぞれあてはまるものの番号を書きいれなさい。

1. おじさんは裁判の結果が不公平だとして控訴することにした。
2. 兄は近く学校を卒業するが、自分に適した職業につきたいといっている。
3. わたくしたちの町内の人人は、道路をよくするように市会に請願した。
4. 近く町村合併について住民投票が行われるが、父はその日旅行するので不在投票をした。
5. わたくしは自分の意見が正しいと思うので、それを雑誌に発表した。

イ	自由権	
ロ	請求権 (受益権)	
ハ	参政権	

(6/2)

34年度〔7〕

つぎの五つのがらは、わが国の憲法によって保障されている権利のうち、A自由権、B生存権、C請求権、D参政権のどれにあたるか。それぞれあてはまる符号を()の中書きなさい。

- () 1. 公共の福祉に反しない限り、どこに住んでもまた移転してもよい。
- () 2. 被告人が無罪の裁判を受けたときは、法律の定めるところにより国にその補償を求めることができる。
- () 3. すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利がある。
- () 4. すべて国民は、働く権利をもっている。
- () 5. 成年者は法律の定めるところにより議員になることができる。

(39/1)

1. この二つの問題は、どちらも、具体的な基本的人権の行使が、自由権、参政権、生存権などのどれに属するかを問うものであって、いわば、上位概念と下位概念を結びつけることができるかをみたものである。
2. このような上位概念の中に下位概念を含めて整理することのできるために

は上位概念をあらわした“ことば”をもっていないとはならない。そして、その“ことば”の意味することを具体的に指すことができなければならない。この問題の正答率が、34年度で39.1%というのはあまりよいとはいえない。そのできない理由は、この二者のどちらかがじゅうぶんでないからであろう。

- 3 上位概念と下位概念をは握するという事は、基本的人権を理解する過程で指導されなければならない。基本的人権という“ことば”と、基本的人権に関する具体的な行為の中間に位する概念がこの自由権、参政権、生存権などである。ところで、基本的人権ということ平板的にとらえると、これらの中間概念がおのおの並列した形で受取られ、このように分類する意味を一つの形式のように考えがちになる。こうした弊におちいらないためには、人間の存在についての基本的な考え方、社会と個人の関係や、特に国家権力との関係について歴史的な角度から指導する必要がある。そうすれば、基本的人権ということばも、人間の生存、人間の自由という概念を抱括する上位概念に使われるものだという理解をもつようになる。その理解を逆に現在的問題に適用して、それらの問題にかかわる行為が人間の自由という概念に属することなのか、参政権という政治行為に属することなのかをはっきりするはずである。特に基本的人権が個人を尊重するということであって、人間一般の意味でないことをじゅうぶん理解させなくてはならない。そうでないと、単なる“ことば”の詰めこみに終ってしまい、生きて働く知識にならないでしまふ。基本的人権の尊重が単なる観念で終らないためには以上のことが重要な留意事項である。

31年度〔1〕

つぎのことがらのうち、国会に権限のあるものを二つ選んでその番号を○でかこみなさい。

1. 総理大臣を指名する。
2. 法律が憲法にそむいているかどうかを最終的に決定する。
3. 弾劾裁判を行って、裁判官をやめさせるかどうかをきめる。

4. 衆議院を解散する。
(65.2)

32年度〔8〕

わが国における地方公共団体について、つぎの間に答えなさい。

- イ 地方公共団体は法に基いて、その実情にかなった政治を行うことができるようになってきている。このような政治の組織、運営を何というか。
- ロ 普通地方公共団体の種類を書きなさい。

(イ-30.7 ロ-10.5)

解 説

- 1 この二つの問題は、政治機構や権限に関する知識をもっているかどうかをみるものである。
- 2 32年度〔8〕の正答率が、イは30.7%、ロは10.5%という低いものであったことは、どこに困難があったのであろうか。まず考えられることは、地方自治について、その機構、運営、種類などを分類整理してきちんと指導しなかったのではないかという点である。つぎに地方公共団体とか普通地方公共団体というような法律用語が正しく与えられず、一般的な用語で指導されたのではないかという点である。
- 3 31年度〔1〕は国会の権限に属するものは何かを二つ選ぶわけであるが、このことは三権分立を学習する過程にもでてくる内容である。このことが確かな記憶になるためには、民主主義政治における三権分立の意義や、三権間の関係を図示するなど多様な連合をともなって理解されなくてはならない。しかし、政治機構や権限は民主主義の政治であるかぎり、民意をもっともよく政治に反映するためにその機構が構成され、その機構にともなった権限があることを、立法、行政、司法の三権について確実に理解させなくてはならない。

32年度〔8〕は地方自治に関する問題であるが、これを問題形式からみれば、ある概念に対応する“ことば”をは握しているかどうかをみる問題である。このことは“ことば”——概念の関係について、つぎのような考え方を教師がもっていないと指導が形式的になる。すなわち、ある事態や現象、それを一般化し本質を表明する概念に対応する“ことば”を獲得するということは、思考を迅速にし、能率的にするためであり、これは、さらにコミュニケーションの能率をたかめることである。したがって、上位の概念に対応する“ことば”を獲得すればするほど、一般的に有用性は広まるといえることができる。しかし、反面、“ことば”を“ことば”の定式で、すなわち、“ことば”の意味するところをもたないで獲得しても、それを使って思考することも意志の伝達はできず、そのようなものは人生の重荷にこそなれ、なんら役にたたないものなのである。そこで、学習指導の場合には、より上位の概念の獲得をはかるとともに、その概念を生徒の既存の概念と結びつけることができるように指導することがたいせつである。

31年度〔2〕

つぎのうちで民主主義の精神に合うものに○を、反するものに×を、()の中に書きいれなさい。

- () 1. わが身をつねって人のいたさを知れ。
- () 2. 泣く子と地頭には勝たれない。
- () 3. 長いものにはまかれろ。
- () 4. 天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず。

(88.9)

33年度〔7〕

つぎの文に示された考え方を、民主主義の立場からみて、正しいと思うものには○を、そうでないものには×を、()の中に書きなさい。

- () 1. きょう部落の集会で、わたしの父は部落総代に選ばれた。しかし母は「本家の主人がいるのだから、おとうさんは辞退したほうがよかった」といっているが、わたしもそう思う。

- () 2. 青年の集りで「人間のねうちは職業や社会的地位によってきまる。」という意見と、「どんな職業についていようと、また社会的地位がどうであろうと、それと人間のねうちは別なものだ。」という意見がでたが、わたしはあとの意見が正しいと思う。
- () 3. ある学会で学問上の考え方について、学者たちの意見が二派にわかかれて討論が夜おそくまで続けられたが、とうとう結論がでなかったという。こんな場合には適当なときをみはからって、多数決できめる方が民主的で能率的に結論ができるのにと、わたしは思った。
- () 4. ある学者の研究によると、人間にとっては左側通行が自然だということだが、学問上の理由はともかくとして、現在日本では右側通行を守らなければならないと、わたしは思う。

(68.0)

解 説

- 1 この二つの問題は、どちらも民主主義についての基本的な考え方を理解しているかどうかをみるものである。
- 2 生徒がこのような考え方を意識としてもち、それを具体的な場に即して判断することもできるということは、二つの正答率からいえるようである。したがって、このような内容に関する知識、理解はじゅうぶんあるものと判断してよいと思う。
- 3 このような民主主義についての考え方は、単にそれを意識としてもっているだけではじゅうぶんであって、現実の生活の中に具現されなければ無意味である。しかし、行動の指針として基本的な考え方をもっていることは、意識的に行為するという点でやはり重要ではある。

ところで、この二つの問題をみると、31年度〔2〕はことわざや格言について、これが民主主義の精神にあっていようかどうかを判断させる問題であるが、これができるためには“ことば”の内在的意味をとらえる力がなくてはならない。このような言語力は国語教育の重要な役割であるが、社会科においてもその内容が社会科に属する限り、やはり指導しなくてはならない。“ことば”の内在的意味はその“ことば”の使用される場が問題になる。この問題に示されたことわざや格言はその成立にそれぞれ独自の歴史的背景を

もっている。たとえば、2と3は封建時代の経済外強制に対する「あきらめ」と消極的抵抗をものがたるものであり、民主主義における個人の権利と義務の主張と対照的な物の考え方であり、4は福沢諭吉の「学問のすすめ」の冒頭に掲げられた有名な“ことば”であるが、彼が申津藩の下士の家に生れたという封建時代の身分制度の不合理を身にしみて体得した生いたちがあればこそ、一層この“ことば”の意味が痛切なひびきをもつのである。このような、ことわざや格言の生れた時代的背景を説明してやれば生徒の理解は一層深まるにちがいない。

33年度〔7〕は、ある場面の中における言動が民主主義の考え方に合っているかどうかをみる問題である。このような問題も、やはり、その“ことば”のあらわしている意味について考えることがたいせつである。すなわち“ことば”の形式のみ読みとるのではなく、その中にある。本質的なものを読みとることができなくてはならない。そして、その本質的なものと民主主義の考え方が共通しているかどうかを、さらに、みわけることができなくてはならない。このような能力があれば、初めて接するような内容のものでも解答できるはずである。

31年度〔7〕

つぎのイ、ロの政策によつて行われたものを、下の□のうちからそれぞれ一つずつ選んでその番号を()の中に入れて書きいれなさい。

- イ. 明治時代に政府がとった産業振興のための政策()
ロ. 太平洋戦争後、政府がとった経済民主化のための政策()

1. 中国に二十一か条の要求を出して経済的權益などを得ようとした。
2. 財閥を解体したり、農地改革をおこなったりした。
3. 経済のいろいろな面にわたって戦時統制をきびしくおこなった。
4. 富岡製米工場のような官営工場を設けた。
5. 板垣退助等の唱える自由民権運動を圧迫した。
6. アメリカとの間に、安全保障条約を結んだ。

(イ-65.7 ロ-47.6)

社会保障について、つぎの間に答えなさい。

イ. つぎの保険のうち、現在わが国が社会保障制度としておこなっているものには○を、そうでないものには×を()の中に書きなさい。

() 1. 失業保険 () 3. 健康保険

() 2. 簡易生命保険 () 4. 火災保険

ロ. 国や地方公共団体からも多くの費用を出して、進んだ社会保障制度をおこなっている国を、つぎのうちから一つ選んでその番号を○でかこみなさい。

1. イギリス 2. イタリア 3. インド 4. アメリカ

(イ-532 ロ-68.0)

解 説

- この二つの問題は、どちらも、ある時代の政治や国民の生活を象徴的にあらわしている政策や制度についての知識の有無とその理解の度合をみるものである。
- 33年度〔8〕は単純に知識をもっているかどうかをみる問題であるから、正答できなかった生徒は、このような知識に接しなかったか、接したとしても記銘が強固でなかったものである。31年度〔7〕は政策の具体的な内容をもっているかどうかをみるものであるから、単に政策を表面的にしか理解していない生徒は容易にとくことができない。
- 政策や制度というものは、その時代の政治や国民生活を象徴的にあらわしているものである。したがって、ある政策を理解するということは、その背景となる当時の社会の状態と結びつけて考えることがたいせつである。たとえば、31年度〔7〕の問題で、イの明治時代に政府がとった産業振興のための政策は、明治維新以後、文明開化、富国強兵のスローガンのもとに、わが国の速かな近代化と、欧米列強に対抗してそれが進出を排除しようとする動きのため、まだ民族資本のじゅうぶんな蓄積をみない当時、政府の力で産業の伸張をはかったものであり、富岡製糸工場の設置はその具体的な例である。また、ロの太平洋戦争後、政府のとつた経済民主化のための政策は――

経済民主化という“ことば”が理解できないために解答できない者もあったかもしれないが——敗戦後連合国によって要求されたわが国民民主化の一環として、あるいは、民主化のための根本的な改革の基礎として財閥を解体したり、農地改革をおこなったことの意味を理解させることが必要である。したがって、このような学習内容は二年生に指導される歴史的な内容においても三年生の経済に関する単元でも取りあげられるわけであるが、この二つの指導がばらばらなものではなく問題意識のもとに統一されることがたいせつである。そのために、三年生になってからの指導の際も、常に二年生で指導された歴史的な分野の内容を想起させ、それと関連をもたせながら考察するように指導がなされなければならない。

33年度〔8〕の社会保障制度の問題は、三年の政治、経済、社会生活のどの単元にも取りあげられるはずであるが、これは現在、世界のどの国でも、多かれ少なかれ社会保障の問題に取り組んでおり、決して社会主義国家だけではないのである。そして、その制度の進んでいることが、民主化の程度をあらわしているのだといってもよいほどである。すなわち福祉国家ということは各国に共通した方向なのである。このことからわが国も社会保障制度の確立のために努力し、国民年金制度などもそのあらわれの一つであるといつてよい。このように、社会保障制度というものは、どのような考え方にたちどどのようなことを到達の目標としているか、たとえば、英国の「ゆりかごから墓場まで」のスローガンとその実現や、現在、わが国で実施している社会保障制度の内容を具体的に取りあげるなどで、理解させることが必要である。

30年度〔4〕

つぎのことがらのうち、国際連盟に関係のあるものと、国際連合に関係あるものを選んで、右の表の空欄にそれぞれの番号を書きなさい。

1. ソビエト連邦は途中から加入したが、アメリカ合衆国は加入しなかった。
2. たとい小国でも一つの国が反対すると、なにごとにも決定できない。

a. 国際連盟	
b. 国際連合	

3. 「世界人権宣言」を発表した。
4. 教育・科学・文化を通じて世界の平和と安全をはからうとするための組織もっている。
5. 戦争や武力にうったえる国を制止するための有力な手段としては、経済封鎖以上のものをもたない。

(22.2)

32年度〔7〕

つぎの文の()の中にあてはまるものを、下から一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

日本は国際連合に加盟する努力をしてきたが1952年と1955年には、ソ連がa()を行使したために加盟できなかった。しかし、1956年12月の国連総会はb()の勧告に基いて日本の加盟決議を全会一致で可決した。これで日本は第80番目の国連加盟国となった。

1. 国際連合事務局
2. 拒否権
3. 請求権
4. 安全保障理事会
5. 国際司法裁判所

(7.6)

32年度〔10〕

つぎの文の()の中にあてはまるものを、下から一つずつ選んでその番号を書きなさい。

1951年9月a()において「日本に対する平和条約」がアメリカ合衆国など49か国によって調印された。さらに日本に対する武力攻撃を防ぐためにb()がc()間に調印された。その実施のためd()が1952年に調印された。

1. ニューヨーク
2. 安全保障条約
3. サンフランシスコ
4. 日ソ
5. 日米
6. 行政協定

(48.3)

解 説

- 1 この三つの問題はどちらも国際関係についての知識をもっているかどうか

をみるものであり、30年度〔4〕は国際連合と国際連盟の相違について、32年度〔7〕はわが国の連合加入のいきさつについて、生徒の知識をみている。

2 30年度〔4〕の正答率は22.2%であり高いとはいえない。これは国際連盟と国際連合の相違を比較する場合、a機構、b結成の歴史的展望、c加盟国とその参加の状態、d議事方式、e行なった仕事、f機能などのいろいろな角度からみたかどうかということと関連する。この正答率から推測すると、あまり内容的に重要なことがらの指導がじゅうぶんなされなかったのではなかろうか。

3 国際関係についての問題は、時事的な角度から取りあげることが多い。このことは二つの意味がある。一つは、現在世界の情勢が急激な勢いで進展しており、きのうの状態は決してきょうの状態でないということである。このことは常に世界の情勢に目を向けていなくては、現在の問題解決に適切な手がうてないということである。いま一つは、わが国も世界の一員として、国際関係の外にあることは許されず、孤立した存在ではないということの意味している。このことは、やはりわれわれが自分の問題を考える時でも国際関係を無視してはなにもできないということをあらわしている。以上のことは社会科の学習内容を端的にあらわしているのであって、現在の問題に目を向けない社会科は社会科でありえないとまで極言できよう。したがって、国際関係、世界平和の問題も現代的問題意識のもとに取りあげられなければならない。

このように考えてくれば、ここにあげた三つの問題も社会科の内容として当然、時事的な意味でふれられなければならない問題であり、当時の国際的な諸問題の中でもわが国にとってきわだって重要な問題の一つであったはずである。ふだんから、新聞、ラジオなどのニュースと関連づけて、生徒の興味と必要感に訴えながら指導することがたいせつである。

30年度〔6〕

つぎの文の{ }の中で適当と思われるものを一つ選んで、その番号を○でかこみなさい。

国際収支の{1. 受取超過 2. 支払超過}が続くと、外貨(外国為替など)が多くなり、また一般には経済が活気をおび、国民所得も{3. 増大 4. 減少}する。最近わが国で{5. 輸入 6. 輸出}をおさえ{7. 輸入 8. 輸出}を増大する政策が強力にとられているのは{9. 受取超過 10. 支払超過}をつづけていくと支払が困難となり、国内の物資は一時多くなるが、やがて国民の生活が苦しくなるからである。

(28.2)

31年度〔6〕

つぎの文を読んで正しいと思うものに○を、あやまりと思うものには×を、()の中に入れて書き入れなさい。

- () 1. 公債や社債を買うことは、支払を増すばかりで、家庭の経済には役立たない。
- () 2. インフレーションになると、物価が高くなり、一般には貯蓄することが困難になる。
- () 3. 消費組合に加入して、家計の合理化をはかれば、一般に貯蓄を増すことができよう。
- () 4. エンゲル係数が高いほど貯蓄しやすい家計といえる。

(46.3)

32年度〔4〕

つぎの1.2.3.4.のことがらは、それぞれ下の図のA, B, C, Dのどれにあたるか。あてはまるものを選んで、その符号を()の中に入れて書きなさい。

- () 1. 生産が急激におとろえる。
工場が閉鎖され、失業者が増加する。



- () 2. 生産財を生産する部門の活躍がはじまる。

- () 3. 消費財を生産する部門の活躍がはじまる。しかし生産財を生産する部門の活況はゆきづまる。失業者が著しく減少する。
- () 4. 生産が活発には行われない。失業者が多い。
- (700)

解 説

- 1 以上の三つの問題は、いずれも、経済用語とその用語があらわす事態について理解しているかをみる問題である。
- 2 30年度〔6〕, 31年度〔6〕, 32年度〔4〕と年をおうにしたがって正答率は高くなっているが、これは学習指導の効果があがったと解するより、経済用語でもよくふれたものと、あまりふれないものとの相違があらわれたと解すべきであろう。だから、32年度〔4〕のように内容的にはきわめて高度の問題が70%の高い率であることは、このあたりの事情を物語っている。しかし、このことが、はたしてよく理解していることをあらわしているのかという点になると問題である。単なる“ことば”の暗記に終わっている心配が多分にあるからである。
- 3 30年度〔6〕の問題は正答率が28.2%でこの三つの問題の中では一番できが悪い。この理由を推測してみると、まず第一に「国際収支」とか「受取超過」「支払超過」というような経済用語の意味がよく解らないということと第二は、その用語のあらわす事態相互の関係がどういように動くのか、ということが解らないという二点にしばることができる。第一の経済用語が解らないということに対しては、その“ことば”の意味を生徒の理解できる“ことば”でいかえてやることによって、ある程度可能であるが、具体的な内容でわが国の貿易の状態を説明することによって、第二の点と併せて一層理解を深めることができよう。そのためには、戦前、戦後の貿易の消長を歴史的に取りあげることも考えなくてはならない。一般に経済に関する内容は抽象度の高い“ことば”によって問題がとりあげられ、生徒の経験を通してみることができないものが多い。したがって、このような内容の指導に当たっては、できるだけ身近な具体的現象をとりあげて比喩的に指導することが効果

的である。たとえば、この問題のような貿易に関しては各自の家計を例にとり、自分の家の経済もどんどん品物を買入れれば一時は家庭内の物資も豊富になるが、代金の支払のとき赤字となって困難する、これと同じように国の貿易も輸入を多くすれば支払が超過になり困難する、というように指導すれば生徒の理解を容易にすることができよう。

31年度〔6〕と、32年度〔4〕の問題も経済用語の意味と、用語のあらわす事態の間の関係を理解できないと答えられない。この指導も30年度〔6〕と同じように考えればよい。ただ、この場合、考えなければならないことは32年度〔4〕の正答率が70%と高いのを、そのまま呑みにして、このような景気の変動についてよく理解していると判断するのは危険のように思われる。すなわち、この問題で表現しているような“ことば”の定式で暗記してそれで符号を記入することがないとはいえないからである。したがって、このような設問の形式であればできて、なぜそのように景気、不景気が生ずるのかを問うような問題になれば、おそらく、もっと正答率はさがるであろうし、現実の家庭経済について国や社会の経済の変動と関係づけて、適切に処理するようなこともできないであろう。すなわち、その“ことば”の意味している現象や事態を取扱わずに“ことば”の操作だけで暗記する以上は、このような心配が多分に出てくるのである。

以上、政、経、社の分野について一通り述べてきたが、これらをまとめて、学習指導にあたって全般的に留意しなければならない事項を簡単に述べてみる。

- 政、経、社の分野では特に現在の社会の諸問題に生徒の目を向けさせ、学習内容もできるだけ現実の問題を取りあげるようにする必要がある。一般にこの分野の学習内容は抽象的なものが多いのであるが、生徒がじゅうぶん理解するためには、かれらの既存の知識や過去経験とよく関連をもたせるように指導することがたいせつである。
- 術語や用語については、ただ定義を与えるというのではなく、具体的な内容をいろいろ取りあげ、それらを比較して一般化するという帰納的な思考過程をたどらせることがたいせつである。

- 統計、グラフなどの活用をはかること。この研究でいわれることは一般に統計、グラフの数値を読みとることはよくできるが、その数値の意味していること、その数値が代表しているいろいろな現象についての解釈が不じゅうぶんのようである。この点についての指導は統計やグラフを問題解決という学習の過程にうまく取り入れることによって可能になると思われる。
- この分野の知識は一般に抽象度のたかいものを“ことば”の暗記でもっているものが多いようである。この点については文部省の昭和33年度全国学力検査の結果の考察にも指摘されているのであるが、抽象度の高い知識をもっているも、理実の問題解決に役立てることができなくては無意味である。この点、指導に際してじゅうぶん考慮し、生徒の理解を深めるようにすることがたいせつである。
- 厳密な比較考察をおこなわせることが不じゅうぶんのようと思われる。たとえば、国際連合と国際連盟の比較とか、社会保障制度における各種保険と営利事業としての保険など具体的にとりあげ、いろいろな角度から検討させるなど、多角的な判断のできるようにすること等。

あ と が き

この紀要は最初にも述べたように、当研究所が34年度より構想を新たに着手した「学力と教育条件の整備ならびに学習指導法の改善」についての研究の手はじめとしてとりあげられたものを集録したものである。高校進学学力検査問題とその結果は、本県の中学生の学力にどのような問題があり、どのような改善すべき点があるかを知る上に、唯一の資料といってもよいものである。われわれは、学力問題の研究を進めるにあたって、まず最初に、本県の児童生徒の学力の実態を少しでも知るため、この高校進学学力検査問題とその結果をとりあげることにした。その結果、いろいろな問題の所在することがわかったので、この問題点がなぜ生じたか、それを解決するにはどうしたらよいか、特にふだんの学習指導がどのように行われねばならないかを明らかにすることに努めた。幸い、つぎの先生方の協力参加を得て、この研究紀要を作成することができた。ここに深く感謝の意を表したい。

県立新潟中央高等学校教諭 伊 里 修 一（主として地理的分野）

同 上 浅 妻 康 二（主として政・経・社的分野）

県立新潟南高等学校教諭 高 橋 道 雄（主として歴史的分野）

新潟市鳥野屋中学校教諭 佐々木 正（全分野）

〃 寄居中学校教諭 若 佐 裕（同 上）

〃 白新中学校教諭 柴 野 清 一（同 上）

この研究の企画、研究方法の大綱は当研究所の全所員が共同して推進したものである。なおこの紀要の社会科篇の執筆は主として羽鳥敬一が担当した。